

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東北財務局長
【提出日】	2018年6月26日
【事業年度】	第15期（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）
【会社名】	ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社
【英訳名】	Human Metabolome Technologies, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 菅野 隆二
【本店の所在の場所】	山形県鶴岡市覚岸寺字水上246番地2
【電話番号】	(0235) - 25 - 1447 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理本部長 長谷川 哲也
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区新川二丁目9番6号シュテルン中央ビル5階
【電話番号】	(03) - 3551 - 2180 (代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理本部長 長谷川 哲也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社 東京事務所 (東京都中央区新川二丁目9番6号シュテルン中央ビル5階)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第11期	第12期	第13期	第14期	第15期
決算年月	2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月
売上高 (千円)	610,356	686,618	780,377	914,180	938,178
経常利益又は経常損失() (千円)	5,962	17,560	71,007	40,410	149,703
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失() (千円)	1,627	34,728	71,469	61,913	156,527
包括利益 (千円)	3,876	31,519	68,340	63,024	148,577
純資産額 (千円)	1,548,137	1,583,018	1,523,281	1,859,413	1,752,717
総資産額 (千円)	1,759,329	1,741,230	1,649,642	2,022,047	1,921,347
1株当たり純資産額 (円)	299.27	297.51	285.59	317.98	293.78
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失() (円)	0.38	6.59	13.41	10.86	26.92
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	0.34	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	88.0	90.9	92.3	91.4	89.2
自己資本利益率 (%)	0.2	-	-	-	-
株価収益率 (倍)	5,028.9	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	29,568	66,387	58,028	45,199	178,196
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	39,986	97,924	124,423	34,205	87,170
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	1,314,396	17,283	28,028	354,660	4,907
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	1,509,385	1,463,188	1,252,522	1,620,341	1,361,379
従業員数 (名)	50	59	63	54	61
〔ほか、平均臨時雇用人員〕	〔6〕	〔4〕	〔6〕	〔7〕	〔5〕

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第12期、第13期、第14期及び第15期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3. 第12期、第13期、第14期及び第15期の自己資本利益率については、親会社株主に帰属する当期純損失を計上しているため記載しておりません。

4. 第12期、第13期、第14期及び第15期の株価収益率については、1株当たり当期純損失を計上しているため記載しておりません。

5. 従業員数欄の〔外書〕は臨時従業員（アルバイト、派遣社員を含む）の年間平均雇用人員であります。

6. 当社は、2013年10月16日付で普通株式1株につき300株の割合で株式分割を行いました。第11期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失を算定しております。

7. 第11期において、一般募集による増資により850,000株、第三者割当増資により150,000株、新株予約権の行使により288,000株の新株発行を行っております。

8. 第14期において、第三者割当増資により430,000株、新株予約権の行使により45,900株の新株発行を行っております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第11期	第12期	第13期	第14期	第15期
決算年月	2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月
売上高 (千円)	600,930	668,849	750,555	879,728	838,725
経常利益又は経常損失 () (千円)	38,946	28,195	54,496	54,952	189,168
当期純利益又は当期純損失 () (千円)	34,671	11,049	148,765	66,158	195,734
資本金 (千円)	1,216,407	1,249,639	1,253,941	1,447,484	1,454,687
発行済株式総数 (株)	5,173,000	5,320,900	5,333,800	5,809,700	5,831,300
純資産額 (千円)	1,588,215	1,665,664	1,525,503	1,858,500	1,704,646
総資産額 (千円)	1,796,914	1,821,049	1,648,750	2,007,442	1,865,269
1株当たり純資産額 (円)	307.02	313.04	286.01	317.82	285.54
1株当たり配当額 (円)	-	-	-	-	-
(1株当たり中間配当額) (円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失 () (円)	8.24	2.10	27.91	11.60	33.66
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	7.35	2.04	-	-	-
自己資本比率 (%)	88.4	91.5	92.5	92.0	89.3
自己資本利益率 (%)	3.9	0.7	-	-	-
株価収益率 (倍)	231.9	563.3	-	-	-
配当性向 (%)	-	-	-	-	-
従業員数 (名)	48	55	58	46	56
[ほか、平均臨時雇用人員]	[5]	[3]	[5]	[6]	[4]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第13期、第14期及び第15期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

3. 第13期、第14期及び第15期の自己資本利益率については、当期純損失を計上しているため記載しておりません。

4. 第13期、第14期及び第15期の株価収益率については、1株当たり当期純損失を計上しているため記載しておりません。

5. 当社は、2013年10月16日付で普通株式1株につき300株の割合で株式分割を行いました。第11期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失を算定しております。

6. 第11期において、一般募集による増資により850,000株、第三者割当増資により150,000株、新株予約権の行使により288,000株の新株発行を行っております。

7. 第14期において、第三者割当増資により430,000株、新株予約権の行使により45,900株の新株発行を行っております。

2【沿革】

当社グループは、2003年7月、慶應義塾大学先端生命科学研究所（山形県鶴岡市）において開発された、生体内の代謝成分を網羅的に、かつ、一斉に測定するメタボローム解析技術を、医薬品開発、疾病診断、食品開発等の分野で実用化するため設立されました。当社グループ設立以後の沿革は、次のとおりであります。

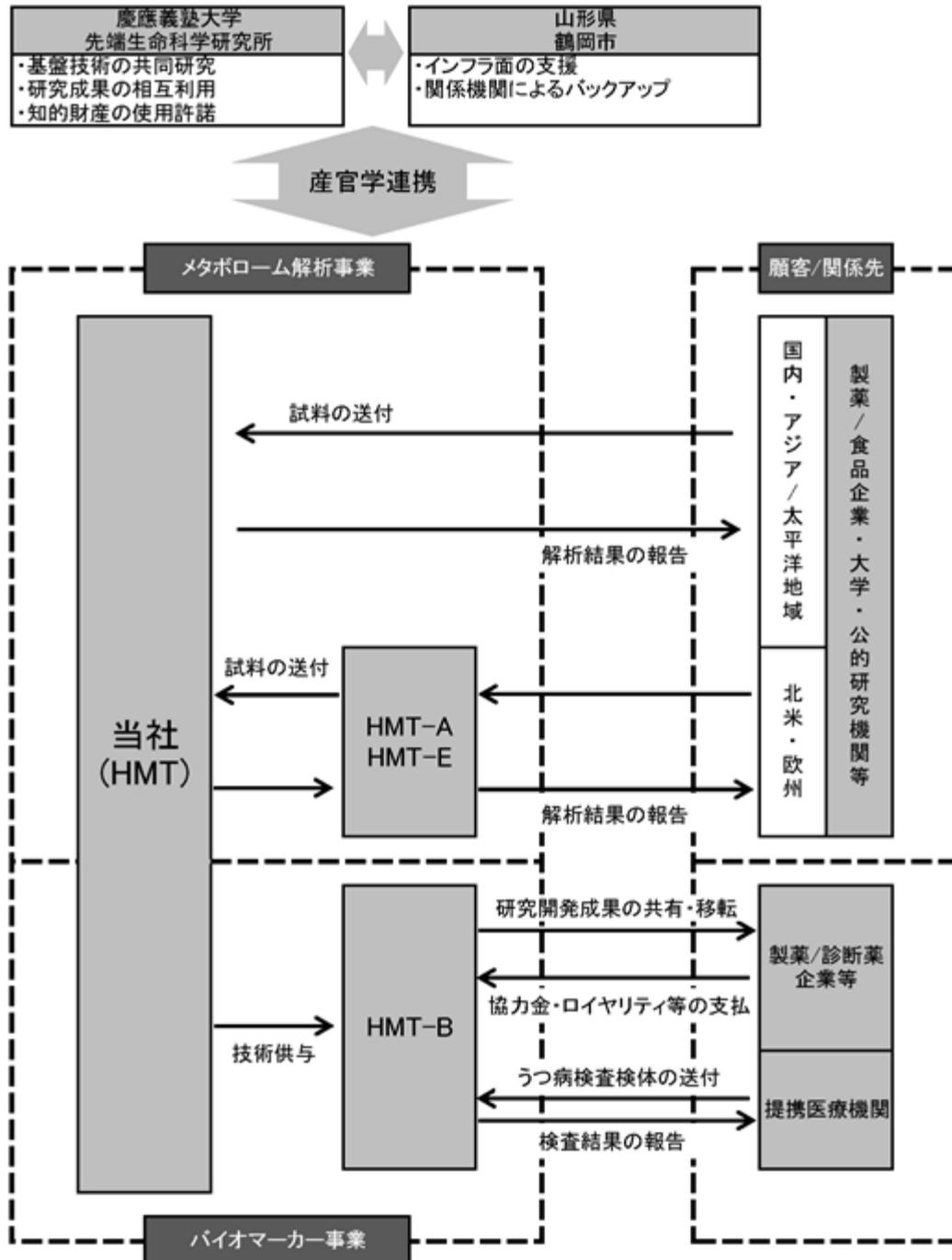
年月	概要
2003年7月	山形県鶴岡市末広町に資本金1千万円で会社設立
2004年6月	味の素株式会社と共同研究契約を締結
2005年6月	Agilent Technologies, Inc.（米国）とメタボロミクスソリューション共同開発に向けて提携 本社を山形県鶴岡市覚岸寺字水上246番地2へ移転
2005年11月	東京都中央区に東京事務所を開設
2006年2月	人材派遣事業を開始
2006年5月	横河アナリティカルシステムズ株式会社（現アジレント・テクノロジー株式会社）とメタボロミクスキットの販売を開始
2009年5月	若手研究者のための奨学助成制度「HMTメタボロミクス先導研究助成制度」を創設
2012年8月	がん研究向け解析サービス“C-SCOPE”発表
2012年10月	アメリカ合衆国マサチューセッツ州に販売子会社Human Metabolome Technologies America, Inc.を設立
2013年9月	学校法人慶應義塾と肝臓疾患のバイオマーカーに関する特許実施許諾契約を締結 発明「うつ病のバイオマーカー、うつ病のバイオマーカーの測定法、コンピュータプログラム、及び記憶媒体」が日本国内において特許登録（特許第5372213号）
2013年12月	東京証券取引所マザーズへ上場
2014年9月	独立行政法人がん研究センター他4者と抗がん剤コンパニオン診断バイオマーカーに関する共同研究契約を締結
2014年10月	発明「脂肪性肝疾患を診断するためのバイオマーカー、その測定方法、コンピュータプログラム、および、記憶媒体」が日本国内において特許登録（特許第5636567号）
2015年1月	発明「エタノールアミンリン酸の測定方法」が日本国内において特許登録（特許第5688163号）
2015年2月	発明「Biomarker of depression, method for measuring biomarker of depression, Computer program, and recording medium」がアメリカ合衆国において特許登録（US8951739）
2015年4月	発明「うつ病のバイオマーカー、うつ病のバイオマーカーの測定法、コンピュータプログラム、及び記憶媒体」が中国において特許登録（ZL201080046087.6）
2015年9月	シスメックス株式会社とうつ病バイオマーカーに係る特許通常実施権許諾契約を締結
2015年11月	発明「腎臓病診断用マーカー及びその利用」が日本において特許登録（特許第5832425号）
2016年1月	神奈川県横浜市にバイオマーカー事業を展開するHMTバイオメディカル株式会社を設立
2016年3月	人材派遣事業を廃止
2016年5月	エムスリー株式会社と資本業務提携契約を締結
2016年6月	エムスリー株式会社、株式会社平田牧場、株式会社山形銀行及び株式会社荘内銀行に対する第三者割当増資を実施
2017年2月	HMTバイオメディカル株式会社において体外診断用医薬品製造販売業の許可を取得
2017年5月	オランダ南ホラント州ライデンに販売子会社Human Metabolome Technologies Europe B.V.を設立
2017年10月	発明「脳症の検出方法」が日本において特許登録（特許第6211283号）
2018年1月	公益社団法人日本精神神経学会の学術雑誌「Psychiatry and Clinical Neurosciences」に大うつ病性障害バイオマーカーに関する論文掲載

3【事業の内容】

当社グループは、当社、メタボローム解析事業の北米市場における販売子会社であるHuman Metabolome Technologies America, Inc.（以下「HMT-A」といいます。）及びメタボローム解析事業の欧州市場における販売子会社であるHuman Metabolome Technologies Europe B.V.（以下「HMT-E」といいます。）並びにバイオマーカーを用いた診断薬・診断機器等の開発・製造・販売を行うHMTバイオメディカル株式会社（以下「HMT-B」といいます。）の4社で構成され、「**未来の子供たちのために、最先端のメタボローム解析技術をコアとした研究開発により、人々の健康で豊かな暮らしに貢献する**」ことを企業理念として、研究機関や企業のメタボローム解析試験受託及びバイオマーカー開発を主たる事業として展開する慶應義塾大学発のベンチャー企業です。当社グループは、設立母体である慶應義塾大学先端生命科学研究所及び本社所在地である山形県や鶴岡市等地方自治体と産官学連携のもとに事業を展開しております。

なお、文中の事業区分は報告セグメントの区分と同一であります。

<事業系統図>



(1) メタボロームとバイオマーカー

人間をはじめとする生物は、筋肉や臓器、骨といった多様な機能を持つ器官から成り立ちますが、これらはアミノ酸や脂質、核酸などの代謝物質（メタボライト）を共通の構成因子としており、代謝物質は全ての生命活動において欠かせない役割を担っています。代謝物質は食事により供給され、運動など日々の活動の中で消費されます。その機能に応じて体内や細胞内を移動し、多くの化学反応によって新しい物質へと作り替えられていきます。このような化学反応のことを代謝（メタボリズム）と呼び、この物質変換は代謝経路という一定の規則により成り立っています。代謝の仕組みを理解することは、私たち自身をより深く知ることに繋がります。

メタボローム解析は幅広い分野で利用されていますが、以下のような分野で代謝を理解する手法として活用されています。

- ・大学などの研究機関における疾患メカニズムの研究
- ・製薬企業における探索・薬理研究や毒性研究
- ・発酵を利用した物質生産を行っている企業における生産性の向上
- ・食品企業における成分分析や機能性の探索・確認

生命活動を営むためには、様々な機能を精緻に制御して「恒常性」を維持する仕組み（内的／外的な影響を最小限にし、一定に保つ仕組み）が備わっています。体温や心拍数が一時的に変化しても元に戻ることが、恒常性の身近な例と言えます。しかし、疾病に罹患することにより恒常性が破綻した場合、代謝物質などの構成要素にも影響が及び、健康の時とは異なる振る舞いを示すようになります。それがバイオマーカーです。バイオマーカーとして広く知られているものに、膵臓の機能指標となる血糖（糖尿病）や肝機能の指標となるγ-GTP（肝硬変等）、腫瘍マーカーとしてPSA（前立腺がん）やCA19-9（膵臓がん等）があります。バイオマーカーとは、特定の疾患に対して客観的に評価できる生体上の指標をいいます。

バイオマーカーは、疾患をモニターすることを目的に古くから研究されてきましたが、より高感度で一度に多くの物質を分析できる新しい方法の出現により、新たなバイオマーカーの研究成果が相次いで発表されています。メタボローム解析技術により、探索が進んでいるバイオマーカーには、以下のようなものがあります。

- ・疾患を予測するバイオマーカー
- ・治療の予後を予測するバイオマーカー
- ・投薬による副作用を予測するバイオマーカー
- ・投薬の効果を予測するバイオマーカー

(2) 当社グループ設立の経緯

生物学、医学分野において、オミクス（注1）は生体の網羅的情報を得る手法として重要です。2001年慶應義塾大学先端生命科学研究所の曾我朋義教授は、生体内の低分子代謝物質（メタボローム）（注2）の測定方法を開発しました。このメタボローム測定法はキャピラリー電気泳動装置（Capillary Electrophoresis）と質量分析計（Mass Spectrometer）を組み合わせて測定するもので、頭文字をとってCE-MS法と呼ばれています。

曾我朋義教授の測定法は、生体内のイオン性代謝物質（注3）を、一斉に、かつ、網羅的に測定できる点で画期的な技術でした。メタボローム解析技術は、生物学基礎研究から医薬開発、疾患バイオマーカー（注4）開発等に用いられるため、本技術の社会的ニーズが見込まれました。

こうした技術の確立を背景に、当社グループは、CE-MS法の開発者である曾我朋義教授、富田勝教授、慶應義塾大学等が中心となり、2003年7月に設立されました。当社グループは、慶應義塾大学のアントレプレナー資金制度により出資を受けた慶應義塾大学発ベンチャー企業の第1号となりました。

(3) ビジネスモデル

当社グループは、CE-MSを用いたメタボローム解析法をコア技術として、メタボローム解析事業で中短期的な収益を確保しつつ、そこで得られた資金をバイオマーカー事業に投下することで、より大きな収益の獲得を図ることを、中長期的な経営戦略と位置付けております。

(4) 事業内容

メタボローム解析事業

本事業では、主に製薬や食品等の民間企業、大学や公的研究機関からメタボローム解析試験を受託しております。顧客は試料を当社へ送付し、当社は試料から代謝物質を抽出し、CE-MS等によるメタボローム解析のうえ、試験結果を報告書として納品します。当社グループのメタボローム解析サービスで得られた代謝物質データは、製薬企業や大学、研究所では基礎生物学研究から薬剤効果及び毒性の評価等、食品企業では発酵プロセスの律速段階解析や機能性食品の機能評価等に用いられ、顧客の研究開発進展に貢献しております。

当社は、メタボローム解析受託サービスをアジアにて展開するため、2011年6月に、韓国Young In Frontier Co., Ltd.と、韓国内におけるメタボローム解析サービス及びメタボロミクスキットの独占的販売権供与契約を締結しました。また、北米市場への展開のため、2012年10月に医学研究の集積地ともいえるアメリカ合衆国マサチューセッツ州ケンブリッジ市に、販売子会社HMT-Aを、欧州市場への展開のため2017年5月にオランダ南ホラ

ント州ライデンに販売子会社HMT-Eを設立し、がん研究向け解析サービスC-SCOPEを主力商品として販売活動を展開しております。

バイオマーカー事業

血液などに含まれる代謝物質バイオマーカーは、疾患の早期診断や治療効果をモニタリングするための診断キット開発のシーズとなります。当社は、バイオマーカー事業を将来の成長事業と位置づけ、大学や診断薬企業との共同研究開発を通じて、メタボローム解析技術を用いたバイオマーカー探索及び診断キットの研究開発を進めております。

当社では、客観的診断が難しい中枢神経系疾患（気分障害や精神障害等）（注5）、メタボリックシンドローム（MetS）（注6）等社会問題化している疾病とその関連疾患に焦点を当てております。現在バイオマーカー及び診断キットの開発を進めている疾患は、大うつ病性障害（注7）、肝疾患、線維筋痛症（注8）、糖尿病性腎症（注9）です。疾患バイオマーカーを探索する対象疾病の選定においては、国内外の診断薬企業や製薬企業の研究者、開発担当者との情報交換を通して、社会が求める疾患診断法や新薬開発に関する情報を得て判断しております。

当社は、自社の研究開発を通じて得られたバイオマーカーや、外部より導入したバイオマーカーを用いて疾患の新たな診断方法を開発するとともに、製品開発・臨床開発等の過程を経て、体外診断用医薬品（注10）や診断機器の製造販売を行います。また開発過程において、共同研究先である製薬企業等から研究開発協力金やマイルストーン収入を受領する他、上市後の販売に応じたロイヤリティを獲得することもあります。

なお、バイオマーカー事業は、2016年1月に設立したHMT-Bを中心に展開しております。

- （注1）オミクス（omics）とは、生体内に存在する遺伝子及びその発現、タンパク質、代謝物質等を網羅的に解析し、生体内の挙動を理解しようとする研究アプローチです。遺伝子（gene）ではゲノミクス（genomics）、遺伝子発現（transcript）ではトランスクリプトミクス（transcriptomics）、タンパク質（protein）ではプロテオミクス（proteomics）、代謝物質（metabolite）ではメタボロミクス（metabolomics）と表現します。
- （注2）ヒトや動植物の生体内には、生命活動の維持に必要なATP（アデノシン三リン酸）等の高エネルギー物質や有機酸、アミノ酸等、数多くの代謝物質が存在し、酵素による代謝物質の変換が活発に行われています。メタボロームとは、これら生体由来の代謝物質の総称です。個々の代謝物質を指す場合には、メタボライトと言うこともあります。
- （注3）イオン性代謝物質とは、水溶液中で電荷を帯びる代謝物質を指します。例えば、食塩（NaCl）は水に溶けると、Na⁺（ナトリウムイオン）とCl⁻（塩化物イオン）に分かれます。イオン性代謝物質は、このように分子が分かれて電荷的な性質を持ち、CE-MS法は、こうしたイオン性代謝物質が電荷を帯びている性質を利用し、キャピラリー電気泳動装置で測定試料に含まれる代謝物質を分離します。
- （注4）血液や尿等に含まれる物質で、疾患等による生体内の変化を定量的に評価するための指標を指します。糖尿病における血糖値、痛風における血液尿酸値等はバイオマーカーの一例です。
- （注5）中枢神経系疾患とは、末梢神経系に対して神経細胞が集中している脳と脊髄の機能に関連した症状を持つ疾病を指します。精神疾患や脳症、脳炎のような脳機能障害、疼痛など広い疾病領域を含んでいます。
- （注6）メタボリックシンドローム（MetS）は、代謝性症候群とも呼ばれ、代謝機能の異常により生じる内臓脂肪型肥満と高血糖、高血圧、脂質異常のうち2つ以上を合併した場合を指します。動脈硬化性疾患やその他の血管性疾患（腎症など）、臓器障害のリスクが高くなるため、予防が重要とされています。
- （注7）大うつ病性障害は、精神障害の一つであり、睡眠障害、焦燥感、不安、食欲低下、抑うつ症状を特徴とします。アメリカ精神医学会や世界保健機関（WHO）から診断基準が示されていますが、基本的に医師の問診により診断されます。
- （注8）線維筋痛症は、激しい全身疼痛を主訴とする原因不明の疾病で、疼痛部位における炎症等の病変は見られず、不眠、抑うつ症状等を伴うこともあります。発症の原因やメカニズムは不明ですが、外傷、感染、ストレスが引き金になることが多く、中枢神経系（下行性痛覚抑制経路）の障害によるものと考えられています。
- （注9）糖尿病性腎症は、糖尿病を背景疾患とした細小血管障害です。高血糖による糸球体糖化や糸球体高血圧を原因として腎機能が障害を受け、腎症に進行します。糖尿病患者の尿中マイクロアルブミンをモニターし、陽性となった場合はACE（アンジオテンシン変換酵素）阻害薬などの降圧剤による治療を行います。寛解率は低く、多くの患者がいずれ人工血液透析療法へ導入されます。
- （注10）体外診断用医薬品とは、薬機法では「専ら疾病の診断に使用されることが目的とされている医薬品のうち、人又は動物の身体に直接使用されることのないものをいう」とされています。検査結果が医師の診断を補助できる点で、単なる研究用試薬とは区別されます。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
(連結子会社) Human Metabolome Technologies America, Inc. (注)3	アメリカ合衆国 マサチューセッツ州 ボストン市	1,750千US\$	メタボローム 解析事業	100.0	役員兼任(2名) 北米での販売委託 資金援助
Human Metabolome Technologies Europe B.V.	オランダ 南ホラント州 ライデン	500千€	メタボローム 解析事業	100.0	役員兼任(1名) 欧州での販売委託
HMTバイオメディカル株式会社	横浜市港北区	50,000千円	バイオマー カー事業	100.0	役員兼任(3名) 資金援助

(注)1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

3. Human Metabolome Technologies America, Inc. については、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等	(1) 売上高	126,943千円
	(2) 経常利益	17,448千円
	(3) 当期純利益	17,382千円
	(4) 純資産額	10,377千円
	(5) 総資産額	126,528千円

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2018年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
メタボローム解析事業	40 (4)
バイオマーカー事業	1 (-)
全社(共通)	20 (1)
合計	61 (5)

(注)1. 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

2. 臨時従業員には、アルバイト及び派遣社員を含んでおります。

3. 全社(共通)は、研究本部、技術開発本部及び経営管理本部の従業員であります。

(2) 提出会社の状況

2018年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
56 (4)	38.7	4.7	4,915,658

セグメントの名称	従業員数(名)
メタボローム解析事業	36 (3)
全社(共通)	20 (1)
合計	56 (4)

(注)1. 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

2. 臨時従業員には、アルバイト及び派遣社員を含んでおります。

3. 平均年間給与には、基準外賃金を含んでおります。

4. 全社(共通)は、研究本部、技術開発本部及び経営管理本部の従業員であります。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は安定しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、世界一のメタボローム解析技術とバイオマーカー探索の王道を確立し、革新的診断法を創造するバイオベンチャーを目指すことをビジョンとして掲げております。当社グループの基盤技術であるメタボローム解析の一層の発展・普及を促進し、その技術を用いて新たなバイオマーカーを探索し、疾病の新たな診断法を社会に提供し続けるベンチャーでありたいと考えています。また、企業理念として「未来の子供たちのために、最先端のメタボローム解析技術をコアとした研究開発により、人々の健康で豊かな暮らしに貢献する」ことを掲げ、事業を展開しております。

(2) 目標とする経営指標

当社グループでは、メタボローム解析事業とバイオマーカー事業という性質の異なる事業を展開しており、目標とする経営指標はそれぞれ異なります。

メタボローム解析事業においては、主に製薬や食品等の民間企業、大学や公的研究機関からメタボローム解析試験を受託し、解析結果を納品することで収益を計上するモデルであり、比較的短期間で収益を計上することが可能となっています。ただし、メタボローム解析技術そのものが未だ普及途上にあり、より多くの顧客に対してメタボローム解析技術の認知・理解を促進し、国内外の市場を開拓することが重要であります。このため、売上高の先行指標である受注金額を重要な経営指標としております。

バイオマーカー事業においては、主として自社のメタボローム解析技術を応用することによって発見されたバイオマーカーを用いて、疾病の新たな診断方法を開発するとともに、製品開発・臨床開発等の過程を経て、体外診断用医薬品や診断機器の開発製造販売を行うことを事業目的としております。したがって、収益化までには長い期間を要する他、先行投資が多額となる傾向にあります。このため、主要パイプラインの開発促進と進捗状況の把握や、先行投資に関するコストコントロールを重要な経営指標としております。

(3) 経営環境

当社が属するライフサイエンス業界は、少子高齢化といった国内環境にあっても、成長が見込まれる数少ない分野の一つとして、研究開発投資が高水準で継続しており、今後も同様に推移することが想定されます。

(4) 中長期的な会社の経営戦略と対処すべき課題

当社グループは、CE-MSを用いたメタボローム解析法をコア技術として、メタボローム解析事業で短中期的な収益を確保しつつ、そこで得られた資金をバイオマーカー事業に投下することで、より大きな収益の獲得を図ることを、中長期的な経営戦略と位置付けております。

この経営戦略の中では、うつ病バイオマーカーをはじめとするパイプラインが実用化・事業化されることによって大きな収益を生み出すと同時に、メタボローム解析技術の評価向上につながり、それがメタボローム解析事業の成長を促すと同時に、研究開発投資の拡大を通じて新たなパイプラインの創出につながるといった好循環を確立することが重要と考えております。

上述の中長期的な会社の経営戦略に基づいて、当社グループが対処すべき課題は以下のとおりです。

メタボローム解析事業の成長と収益力の向上

当社グループの中長期的な経営戦略の中でも、メタボローム解析事業が着実に成長するとともに、解析・分析といった生産工程の改善により、持続的に収益に貢献することが極めて重要であります。したがって、国内外での営業体制の強化や、作業の標準化等を通じた生産性の改善を図るとともに、新たな測定・解析プログラムの開発等を通じたサービスの付加価値向上に取り組んでまいります。

バイオマーカー事業への投資拡大

バイオマーカー事業においては、最も期待度の高いパイプラインであるうつ病バイオマーカーの早期の実用化・事業化が最優先課題であります。このため、同バイオマーカーに関する研究用試薬等の製品開発や、大学病院等の連携医療機関拡大を通じた臨床開発に経営資源を集中的に投下してまいります。その他、研究開発体制の強化を通じて、新たなバイオマーカー候補物質の創出にも取り組んでまいります。

積極的な人材獲得等を通じた組織の活性化

当社グループは、バイオマーカー事業への本格的な投資拡大に象徴されるようにビジネスモデルの大きな転換期を迎えており、これを成功裡に導くためには多様なスキルを持つ優秀な人材の確保や組織体制の柔軟な見直しとともに、構成員のモチベーション向上が不可欠であります。したがって、積極的な採用活動による人材獲得や報酬体系などの制度見直しの他、社内外のコミュニケーション促進等を図ることにより、組織の活性化に取り組んでまいります。

機動的かつ柔軟な資本政策

バイオマーカー事業への本格的な投資拡大に際し、中長期的に必要な投資資金の確保と調達は重要な経営課題であり、調達手段の多様化等も含めた機動的かつ柔軟な資本政策に取り組んでまいります。また、当社グループの企業価値向上のためには、情報開示等を通じた市場との対話も重要であるため、IR活動の強化にも取り組んでまいります。

2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクには、以下のような事項があります。当社グループは、これらのリスクの可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合には当該リスクによる影響が最小限となるよう対応に努める方針であります。当社株式に関する投資判断は、以下の事業等のリスク及び本項以外の記載事項を慎重に検討した上で行われる必要があると考えます。また、以下の記載は当社グループに関連するリスク全てを網羅するものではありませんので、ご注意ください。

なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 売上高の季節変動に関するリスク

当社グループの主力顧客である大学及び公的研究機関は、公的な補助金を活用し、研究開発活動を進めております。補助金の多くは、6月から7月にかけて徐々に予算の執行が始まります。近年は、早期に予算を執行する傾向にあります。顧客は年度末までに予算を執行すれば良いことや、実験により測定試料を準備する場合もあり、依然下期に測定試料の到着が集中しております。その結果、当社グループの売上高は例年下期、特に第4四半期に集中する傾向があります。測定試料の受領が遅れた場合には年度内の解析が困難になり、受注がキャンセルされるリスクや、解析量が当社の能力を超え、機会損失が発生するリスクがあります。

そのため、当社グループは、季節変動による影響を抑えるため、補助金への依存度の低い民間企業や年度末の時期が異なる海外からの受注拡大を目指してまいります。

(2) 公的な補助金の動向に関するリスク

当社グループが属するライフサイエンス業界は、様々な公的な補助金制度を活用しながら研究開発活動を行っております。中でも、大学や公的研究機関の研究開発活動における公的な補助金の割合は高水準となっております。そのため、今後、社会的な情勢の影響を受け、公的な補助金制度が縮小する場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 海外への事業展開が計画通りに進捗しないリスク

近年、メタボローム研究は、海外でも盛んに行われ、研究論文も増加傾向にあります。当社グループは、こうしたことを踏まえ、海外へ事業を展開していくことが今後の成長を確保する上で重要と考えております。そのため、当社グループでは、北米地域やアジア・パシフィック地域での営業活動強化に加え、新たに欧州地域へも本格的に進出するなど海外展開を加速させる方針です。しかしながら、これらの地域における事業展開が何らかの理由により遅れた場合、又は当社グループの計画を超えて支出が増加する場合には、当社グループの業績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 国内外での競合リスク

現在メタボローム研究は、北米、欧州、日本を中心にグローバルに展開されており、メタボローム解析を事業とする競合も、海外のベンチャーを中心に増加しております。また、近年大学を中心にメタボローム解析研究の拠点が整備され、一部有償で解析試験を受託する動きも出てきています。

当社グループは、がん細胞のエネルギー代謝解析に特化した解析プランや、納期の短縮等により競合との差別化を図っております。

これらの施策により、競合に対する優位性を確保する方針ですが、企画したとおりの優位性を発揮しなかった場合には、当社グループの業績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 事業化及び商品化が長期に及びリスク

当社は、開発し権利化したバイオマーカーを用いて、疾病の診断を可能とする検査キットや検査機器の開発を推進し、製薬企業や診断薬企業との提携による研究開発協力金、バイオマーカーの権利導出による一時金、マイルストーンを獲得するほか、自ら検査用試薬等の製造販売を手掛けることにより収益化することを目指しております。一般に診断薬を含む医薬品や検査機器等の開発には多大な費用と年数がかかり、製造販売承認の時期も不確定です。こうした当社のバイオマーカーを活用した製品の製造販売承認が遅れた場合には、当社グループの業績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

(6) バイオマーカー探索や臨床検査法の開発に関するリスク

当社は、大学や病院等との共同研究を通じてバイオマーカーの探索研究を進めていく方針です。獲得したバイオマーカーは、酵素法、抗体法、機器分析法等、当該バイオマーカーの物質特性に合う臨床検査法の開発を進めます。

しかしながら、対象とする疾患患者の生体試料が必要数集まらない場合や、有効な酵素や抗体が獲得できない場合には、事業化までのスケジュールに遅れが生じ、当社グループの業績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

(7) バイオマーカーに関する知的財産権のリスク

当社は、中枢神経系疾患、生活習慣病等の分野でバイオマーカー探索研究を進めております。こうした研究開発活動において得られたバイオマーカーは積極的に権利化を進め、製薬企業や診断薬企業との提携による最終製品の共同開発、又はライセンス等により収益を獲得していく方針です。

しかしながら、何らかの理由により獲得したバイオマーカーに関する特許が成立しない場合には、バイオマーカー事業の収益獲得が困難になり、当社グループの業績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 学校法人慶應義塾から供与を受けているメタボローム解析ソフト「KEI0 Master Hands」について

当社は、慶應義塾大学先端生命科学研究所が開発したメタボローム解析ソフト「KEI0 Master Hands」の利用について学校法人慶應義塾よりライセンスを受けております。同解析ソフトは、メタボローム解析において基盤となる重要な解析ソフトウェアであることから、当社は複数年のライセンス契約を担保するため、別途学校法人慶應義塾と「「KEI0 Master Handsソフトウェア」使用の更新に関する合意書」を締結しておりますが、今後何らかの理由により契約が終了した場合には、当社グループの業績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 災害によるリスク

当社グループの事業及び研究開発用の分析装置、サーバー等の設備は、山形県鶴岡市の本社研究所に集中しております。当社は、定期的な分析装置のメンテナンスの実施や、生体試料の管理システムを導入するなど、その操業及び運営については万全を期しておりますが、東日本大震災のような大規模な地震、落雷、豪雪、その他自然災害や停電が発生した場合には、当社の設備や人員への被害が生じ、分析業務や研究開発に支障が生じる恐れがあります。加えて物的・人的に被害が生じた場合には、設備の修繕や補償に対する多額のコストが発生し、当社グループの信用にも影響する恐れがあります。このような事態が生じた場合には、当社グループの業績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 小規模組織であることについて

当社グループの役員数は、当連結会計年度末現在、役員8名及び従業員61名と小規模組織であり、内部管理体制も組織規模に応じたものとなっております。当社グループは、内部管理体制及び業務遂行体制の充実に努めておりますが、限りある人的資源に依存しております。このため、急激な事業拡大により人員が増加した場合、又は、規模縮小や退職等に伴い人的資源の流出が生じた場合等には、当社グループの業績及び今後の事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

経営成績の状況

当連結会計年度における世界経済は、北朝鮮情勢等の地政学的リスクや米国・中国間の貿易摩擦への懸念などがあるものの、米国・欧州を中心におおむね堅調に推移しました。国内においても、企業収益や雇用環境等の改善が続き、緩やかな回復基調を維持しました。

当社グループが属するライフサイエンス業界においては、医療・介護の効率化に向け、予防医療や個別化医療を推進する動きが増え、健康管理等へのニーズが世界的に高まっています。

このような状況の中、当社グループでは、メタボローム解析事業において、学会への出展やキャンペーンといった販促活動を中心に受注拡大に取り組むとともに、海外市場の拡大や新サービス開発等に注力してまいりました。

また、バイオマーカー事業においてはうつ病性障害（以下「うつ病」といいます。）バイオマーカーの事業化に向け、研究用試薬キット及び測定機器の開発並びに臨床研究に向けた取り組みを推進しました。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は、メタボローム解析事業の受注が堅調に推移したことから938,178千円（前年同期比2.6%増）となりました。

一方で、うつ病バイオマーカー（PEA）の実用化・事業化に向けた投資を加速させたこと等により、研究開発費を中心に販売費及び一般管理費が増加したため、営業損失は140,914千円（前年同期は43,332千円の営業損失）、経常損失は149,703千円（前年同期は40,410千円の経常損失）、親会社株主に帰属する当期純損失は156,527千円（前年同期は61,913千円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。

	2017年3月期	2018年3月期	増減率
売上高	914,180千円	938,178千円	+2.6%
営業損失（ ）	43,332千円	140,914千円	-
経常損失（ ）	40,410千円	149,703千円	-
親会社株主に帰属する当期純損失（ ）	61,913千円	156,527千円	-

セグメント別の業績は次のとおりであります。

<メタボローム解析事業>

	2017年3月期	2018年3月期	増減率
売上高	913,458千円	936,027千円	+2.5%
（内国内売上高）	798,269千円	779,817千円	2.3%
（内海外売上高）	115,189千円	156,209千円	35.6%
セグメント利益	501,010千円	445,146千円	11.2%

当事業セグメントにおいては、前期に引き続き積極的な販促活動を展開し、化学・製薬分野等において大口案件の受注拡大に取り組んだ他、解析サービスのラインナップ拡充に向けた研究開発活動を推進しました。海外においても大口案件獲得に取り組む、米国を中心に製薬・臨床分野からの受注が増加した他、オランダに現地法人を設立するなど、欧州での事業展開の加速にも取り組んでまいりました。また、中国での本格的な事業展開に向けた市場調査を実施するなど、アジア圏の市場拡大に向けた活動を行いました。この結果、売上高は936,027千円（前年同期比2.5%増）、セグメント利益は445,146千円（前年同期比11.2%減）となりました。

<バイオマーカー事業>

	2017年3月期	2018年3月期	増減率
売上高	722千円	2,150千円	+197.9%
セグメント損失（ ）	198,005千円	185,305千円	-

（注）本事業においては海外の売上高はありません。

当事業セグメントにおいては、うつ病バイオマーカーの実用化・事業化に向け、研究用試薬キットの性能評価や供給体制の整備、測定機器等の研究開発を継続しました。また、うつ病バイオマーカーの臨床性能試験に向け、フィジビリティ試験を実施する他、PEAに関連した論文が学術誌に掲載されるなど、うつ病バイオマーカーの認知度向上に取り組まれました。売上高に関しては、うつ病バイオマーカーに関連した共同研究の中で受託業務に

よる収入があったため、2,150千円（前年同期比197.9%増）となりました。一方で、うつ病バイオマーカー関連の研究用試薬キットの性能向上・量産化に向けた技術開発や、臨床性能試験開始に向けた人員拡充・体制整備を行ったことにより販売費及び一般管理費が増加した結果、セグメント損失は185,305千円（前年同期は198,005千円のセグメント損失）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ258,962千円減少し、1,361,379千円となりました。当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの概況は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは178,196千円の支出（前年同期は45,199千円の収入）となりました。これは主に税金等調整前当期純損失149,173千円の計上、売上債権54,189千円の増加、減価償却費61,470千円の計上、法人税等支払額35,791千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは87,170千円の支出（前年同期は34,205千円の支出）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出84,519千円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは4,907千円の収入（前年同期は354,660千円の収入）となりました。これは株式の発行による収入14,257千円、リース債務の返済による支出9,282千円等によるものであります。

財政状態の分析

（流動資産）

当連結会計年度末における流動資産は1,762,979千円となり、前連結会計年度末に比べ71,694千円減少しました。これは、売掛金が52,913千円、有価証券が100,190千円増加したものの、現金及び預金が258,962千円減少したこと等によるものであります。

（固定資産）

当連結会計年度末における固定資産は158,367千円となり、前連結会計年度末に比べ29,005千円減少しました。これは、投資有価証券が101,062千円減少したものの、工具、器具及び備品が38,379千円、リース資産が28,830千円増加したこと等によるものであります。

（流動負債）

当連結会計年度末における流動負債は122,038千円となり、前連結会計年度末に比べ23,481千円減少しました。これは、リース債務が6,703千円増加したものの、未払法人税等が27,733千円減少したこと等によるものであります。

（固定負債）

当連結会計年度末における固定負債は46,592千円となり、前連結会計年度末に比べ29,477千円増加しました。これは、繰延税金負債が2,399千円減少したものの、リース債務が31,751千円増加したこと等によるものであります。

（純資産）

当連結会計年度末における純資産は1,752,717千円となり、前連結会計年度末に比べ106,696千円減少しました。これは、資本金が7,203千円、資本剰余金が7,203千円、新株予約権が27,541千円増加したものの、親会社株主に帰属する当期純損失156,527千円を計上したこと等によるものであります。

生産、受注及び販売の実績

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	
	生産高(千円)	前年同期比(%)
メタボローム解析事業	3,948	70.6
合計	3,948	70.6

- (注) 1. 金額は、販売価格によっており、消費税等は含まれておりません。
 2. 上記の金額は、メタボローム解析事業のうち、試薬キットに係る部分を記載しております。
 3. その他メタボローム解析事業及びバイオマーカー事業については、業務の性質上生産として把握することが困難であるため、記載しておりません。

(2) 仕入実績

当連結会計年度における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	
	仕入高(千円)	前年同期比(%)
メタボローム解析事業	18,580	172.4
合計	18,580	172.4

- (注) 1. 金額は、仕入価格によっており、消費税等は含まれておりません。
 2. 上記の金額は、メタボローム解析事業のうち、限外ろ過フィルターに係る部分を記載しております。
 3. その他メタボローム解析事業及びバイオマーカー事業については、業務の性質上仕入として把握することが困難であるため、記載しておりません。

(3) 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)			
	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
メタボローム解析事業	1,004,228	108.9	177,217	162.6
バイオマーカー事業	2,150	297.9	-	-
合計	1,006,379	109.0	177,217	162.6

- (注) 金額は、販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

(4) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	
	販売高(千円)	前年同期比(%)
メタボローム解析事業	936,027	102.5
バイオマーカー事業	2,150	297.9
合計	938,178	102.6

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 2. 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、当該割合が100分の10に満たないため、記載しておりません。

(2) 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成されております。この連結財務諸表において、損益又は資産の状況に影響を与える見積りの判断は、一定の会計基準の範囲内において、過去の実績や判断時点で入手可能な情報に基づき合理的に行っておりますが、実際の結果は見積りによる不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

当連結会計年度の経営成績等については、売上高の先行指標である受注高が前年同期比9.0%増の1,006,379千円と10%に迫る増加となったものの、売上高は938,178千円と前年同期比2.6%の増加にとどまりました。

これは当連結会計年度末の受注残高が177,217千円と前年同期比62.6%の大幅増加となったことが示すとおり、メタボローム解析事業における一部の大型受注案件の測定試料の受領が次期に繰り越されたことが原因であります。

『2【事業等のリスク】(1) 売上高の季節変動に関するリスク』に記載のとおり、メタボローム解析事業の売上高は第4 四半期に集中する傾向があり、また大型案件では受注から納品（売上計上）までに比較的長期間を要するものもあるため、このように受注高と売上高に乖離が生じる場合があります。

このため当社グループでは、このような季節的変動等が、稼働率や作業効率の変動を通じて経営成績に悪影響を及ぼすことを避けるため、海外からの受注拡大など当該影響を緩和するための諸施策に引き続き取り組んでまいります。

損益面に関しては、営業損益、経常損益、親会社株主に帰属する当期純損益の各段階で、概ね前年同期比100,000千円前後損失が拡大する結果となりました。

これは、従来から行ってきたバイオマーカー事業におけるうつ病バイオマーカーの実用化・事業化に向けた研究開発投資に加え、メタボローム解析事業や全社共通部門において次世代基盤技術等に対する研究開発投資が増加したことや、専門知識を有する研究者・技術者を中心に人員の拡充を図ったことによる人件費の増加等によるものであります。

以上のとおり、当連結会計年度における損失拡大については、主に将来の収益獲得や事業基盤拡充に向けた先行投資の結果であり、売上高や保有する現預金等とのバランスからみても、特に過大であるとは考えておりませんが、引き続き費用対効果を十分に考慮した研究開発活動等に取り組んでまいります。

経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループは、CE-MSを用いたメタボローム解析法をコア技術として、メタボローム解析事業で短中期的な収益を確保しつつ、そこで得られた資金をバイオマーカー事業に投下することで、より大きな収益の獲得を図ることを、中長期的な経営戦略と位置付けております。

この中で現在開発を推進しているうつ病バイオマーカーは最も期待度の高いパイプラインであり、当該開発の成否も含めた実用化・事業化の時期や規模によって、当社の経営成績に重要な影響を与える可能性があります。

加えて、現時点での主力事業であるメタボローム解析事業においても、更なる成長のためには、次世代基盤技術の開発や海外市場の開拓等を通じた事業基盤の拡充が不可欠であることから、これらの成否によっては当社の経営成績に重要な影響を与える可能性があります。

資金の財源及び資金の流動性について

当社グループは、メタボローム解析事業で短中期的な収益を確保しつつ、そこで得られた資金をバイオマーカー事業に投下する戦略を採っておりますが、現時点ではうつ病バイオマーカーの実用化・事業化に向けた投資が先行する状況にあるため、不足する部分については主に公募増資や第三者割当増資による新株式発行によって調達した資金を充当しております。

現時点でのバイオマーカー事業への投資水準や、メタボローム解析事業の収益水準及び手許現預金残高等を勘案すれば、当面の資金の流動性に特段の懸念はないものと考えておりますが、引き続き調達手段の多様化等も含めた機動的かつ柔軟な資本政策に取り組んでまいります。

4【経営上の重要な契約等】

(1) メタボローム解析事業

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約品目	契約締結日	契約期間	契約内容
当社	味の素株式会社	日本	役務提供	2018年4月27日	2018年4月27日から2019年3月31日まで	当社は、味の素株式会社が指定する微生物の代謝物質のメタボローム測定を行う。 当社は、測定されたデータについて、必要に応じて解析結果のコンサルティングを行う。 本契約に基づいて実施したメタボローム解析に関する成果は、全て味の素株式会社に帰属する。
当社	Pathway Solutions Inc.	日本	データベースのライセンス	2015年8月31日	2015年7月1日から2018年12月31日まで	Pathway Solutions Inc.社は、当社に対して、KEGG (Kyoto Encyclopedia of Genes and Genomes) データベースの自社における研究開発活動及び事業で使用するための通常実施権を許諾する。許諾されるKEGGデータベースには、KEGG PATHWAY、KEGG GENES等が含まれる。

(2) バイオマーカー事業

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約品目	契約締結日	契約期間	契約内容
当社	学校法人慶應義塾	日本	肝臓疾患のバイオマーカーのライセンス	2013年9月20日	契約締結日より発明に基づき取得された特許の最終存続期間満了日まで	学校法人慶應義塾が開発した肝臓疾患のバイオマーカーに係る発明の通常実施権の供与。
当社	シスメックス株式会社	日本	大うつ病性障害の血液バイオマーカーのライセンス	2015年9月28日	2015年9月28日から特許の最終存続期間満了日まで	当社が保有する大うつ病性障害の血液バイオマーカー（エタノールアミンリン酸）関連特許の通常実施権の許諾及び製造販売の実施。

(3) 事業全般に関する契約

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約品目	契約締結日	契約期間	契約内容
当社	学校法人慶應義塾	日本	特許のライセンス	2003年10月22日	2003年10月22日から2004年10月21日まで（期間満了の1月前までに両者のいずれかから書面による申出があった場合を除き、1年ごとに延長される）	学校法人慶應義塾は、当社に対し同大学が保有する特許「陰イオン性化合物の分離分析方法及び装置」（特許第3341765号）の全ての範囲について通常実施権を許諾する。また、同大学は本特許発明に関する改良技術について特許を取得した場合には、当社に対してその全ての範囲について通常実施権を許諾する。

契約会社名	相手先の名称	相手先の所在地	契約品目	契約締結日	契約期間	契約内容
当社	学校法人慶應義塾 (先端生命科学研究所)	日本	共同研究及び 成果の相互利用	2007年 8月8日	2007年4月1日から 2008年3月31日まで (研究期間満了の30日 前までに両者のいずれ かから書面による申出 があった場合を除き、 1年ごとに延長され る)	当社と慶應義塾大学先端生命科学研究所は、メタボローム測定・解析法の改良及び新たな手法の開発のため、共同研究を行う。当社は、2016年4月1日から3年間、毎年400万円を本共同研究遂行のための費用として、慶應義塾大学先端生命科学研究所へ支払う。本共同研究により得られた発明等は両者共有とし、その持分は両社双方の貢献度によりその都度協議の上決定する。本契約に基づき両者が所有する測定機器等について、相手方の要請に基づき相互に利用できる。
当社	学校法人慶應義塾	日本	ソフトウェア のライセンス	2015年 12月24日	2016年4月1日から 2019年3月31日まで	当社と学校法人慶應義塾は、前記契約第4条(機器等の相互利用)において規定される「KEIO Master Hands」のライセンス料について、新たに2016年4月1日から3年間の取扱について合意し、当社は学校法人慶應義塾に対し、ライセンス料として年額300万円を支払う。
当社	エムスリー株式会社	日本	資本及び業務 提携契約	2016年 5月24日	2016年5月24日から 期間の定めなし	当社の実施する第三者割当増資の引受、並びにうつ病バイオマーカーの実用化を中心とした業務面での協力及び協業体制の構築。

5【研究開発活動】

当連結会計年度においては、メタボローム解析のための基盤技術の開発、うつ病バイオマーカーの実用化・事業化に向けた製品開発、並びに新規バイオマーカーの探索研究等を中心に研究開発を進めてまいりました。当連結会計年度における研究開発費の総額は235,752千円であります。

セグメントごとの研究開発活動を示すと次のとおりであります。

メタボローム解析事業

当事業に係る研究開発費の金額は17,290千円であります。当連結会計年度においては、主に解析プランのラインナップ拡充に向けた組織や設備の強化に取り組んだ他、解析ソフトウェアの開発等を行いました。

バイオマーカー事業

当事業に係る研究開発費の金額は123,646千円であります。当連結会計年度においては、うつ病バイオマーカーの実用化・事業化に向けた製品開発や臨床研究を進めました。

全社研究開発

全社に係る研究開発費の金額は94,815千円であります。当連結会計年度においては、主にバイオマーカーの探索にかかる次世代基盤技術の開発等を進めました。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、解析能力の増強や研究開発の加速、基幹業務の効率化を目的とした設備投資を実施しております。なお、有形固定資産の他、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

当連結会計年度の設備投資の総額は、135,594千円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1) メタボローム解析事業

当連結会計年度の主な設備投資は、解析の安定稼働及び効率化並びに新解析プラン開発のため、キャピラリー電気泳動システムの更新等に総額115,277千円の投資を行いました。なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(2) バイオマーカー事業

当連結会計年度の主な設備投資は、検査用測定装置等に総額882千円の投資を行いました。なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(3) 全社共通

当連結会計年度の主な設備投資は、研究開発用測定装置や基幹システム更新等に19,435千円の投資を行いました。なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2018年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物	工具、器 具及び備 品	リース資 産	ソフトウ エア	合計	
本社研究所 (山形県鶴岡市)	メタボローム解 析事業	質量分析装置 他実験設備	2,503	21,672	93,240	2,610	120,026	23 (3)
	バイオマーカー 事業	同上	-	86	-	-	86	- (-)
	全社共通	研究開発用装 置等	1,880	8,381	-	3,608	13,870	13 (-)
東京事務所 (東京都中央区)	メタボローム解 析事業、全社共 通	サーバー等	4,899	3,958	-	1,996	10,853	20 (1)

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
 2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
 3. 従業員数は就業人員であり、従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
 4. 上記の他、連結会社以外から賃借している設備の内容は、下記のとおりであります。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)
本社研究所 (山形県鶴岡市)	メタボローム解析事業	質量分析装置等	791	1,763
東京事務所 (東京都中央区)	全社共通	複合機	437	1,727

(2) 国内子会社

2018年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)			従業員数 (名)
			建物及び 構築物	工具、器 具及び備 品	合計	
HMTバイオメディカル(株) (神奈川県横浜市)	バイオマーカー事業	建物附属設備等	970	969	1,939	1

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
 2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
 3. 上記の他、連結会社以外から賃借している設備はありません。

(3) 在外子会社

2018年3月31日現在

会社名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)		従業員数 (名)
			工具、器具及び備品	合計	
Human Metabolome Technologies America, Inc. (アメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストン市)	メタボローム解析事業	試料保存用フリーザー等	273	273	3 (1)
Human Metabolome Technologies Europe B.V. (オランダ南ホラント州ライデン)	メタボローム解析事業	什器等	895	895	1 (-)

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
 2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
 3. 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
 4. 上記の他、連結会社以外から賃借している設備の内容は、下記のとおりであります。

会社名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	年間リース料 (千円)	リース契約残高 (千円)
Human Metabolome Technologies America, Inc. (アメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストン市)	メタボローム解析事業	社用車	663	555
Human Metabolome Technologies Europe B.V. (オランダ南ホラント州ライデン)	メタボローム解析事業	社用車	20	1,964

3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資計画については、景気予測、業界動向、投資効率等を総合的に勘案して策定しております。計画は原則としてグループ各社が個別に策定していますが、計画策定に当たっては提出会社を中心に調整を図っております。

なお、当連結会計年度末現在における重要な設備の新設等の計画は次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設等

提出会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完成予定年月	完成後の増加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)				
当社	本社研究所 (山形県鶴岡市)	メタボローム解析事業	メタボローム解析用分析装置、研究開発用設備	134,400	-	自己資金 ファイナンス・リース	2018年 4月	2019年 3月	(注) 1
		全社資産	研究開発用設備 IT設備	78,200	-	自己資金 ファイナンス・リース	2018年 4月	2019年 3月	(注) 1

- (注) 1. 増加能力につきましては、合理的に算定できないため記載しておりません。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. ファイナンス・リースによる設備投資予定額は、リース料総額により記載しております。

国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完成予定年月	完成後の増加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)				
HMTバイオメディカル(株)	本社 (神奈川県横浜市)	バイオマーカー事業	研究開発用設備	43,560	-	自己資金	2018年 4月	2019年 3月	(注) 1

- (注) 1. 増加能力につきましては、合理的に算定できないため記載しておりません。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

- (2) 重要な設備の除却等
特記すべき事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2018年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2018年6月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,831,300	5,847,800	東京証券取引所 (マザーズ)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。単元株式数は100株であります。
計	5,831,300	5,847,800	-	-

(注) 提出日現在発行株数には、2018年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

ストックオプション制度の内容は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」の(ストック・オプション等関係)に記載しております。

なお、当事業年度の末日から提出日の前月末現在(2018年5月31日)にかけて発行した新株予約権の内容は次のとおりであります。

決議年月日	2018年4月18日
付与対象者の区分及び人数	従業員 2名
新株予約権の数	170個
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数	普通株式 17,000株
新株予約権の行使時の払込金額 (注) 1	2,043円
新株予約権の行使期間	自 2020年5月8日 至 2025年5月7日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 2,043円 資本組入額 1,021.5円
新株予約権の行使の条件	新株予約権の割当を受けた者は、権利行使時において当社又は当社関係会社の役員又は従業員の地位を有していることを要する。ただし、任期満了により退任した場合、定年退職した場合等、当社が正当な理由があると認めた場合を除く。その他の条件については、当社と割当対象者との間で締結する「新株予約権割当契約書」の定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡については、取締役会の承認を要するものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 2

(注) 1. 調整前行使価額を下回る価額で、新株を発行又は自己株式を処分する場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行による増加株式数}}$$

上記算式において、「既発行株式数」とは、発行済株式総数から当社が保有する自己株式数を控除した数とし、自己株式を処分する場合には「新規発行」を「自己株式の処分」、「1株当たり払込金額」を「1株当たり処分金額」と読み替えるものとする。さらに、割当日以降、資本の減少、合併又は会社分割等、株式の行使価額を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、資本の減少、合併又は会社分割等の条件等を勘案の上、当社は合理的な範囲で行使価額の調整を行う。

なお、株式分割、株式併合又は株式無償割当てを行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合・無償割当ての比率}}$$

2. 合併（合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ分割会社となる場合に限る。）、又は株式交換もしくは株式移転（それぞれ完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社の成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。）の直前において残存する新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。この場合において、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めることを条件とする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、上記「新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数」に準じて決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、上記「新株予約権の行使時の払込金額」と組織再編行為の条件等を勘案の上、調整して得られる再編後払込金額に上記 に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。

新株予約権を行使することができる期間

上記新株予約権の行使期間に定める行使期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から、当初の上記新株予約権の行使期間に定める期間の満了日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の承認を要するものとする。

新株予約権の行使の条件及び取得条項

上記「新株予約権の行使の条件」及び以下 に準じて決定する。

以下の(1)、(2)、(3)、(4)又は(5)の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要の場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、当社取締役会が別途定める日に、当社は無償で新株予約権を取得することができる。

- (1) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案
- (2) 当社が分割会社となる分割契約若しくは分割計画承認の議案
- (3) 当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案
- (4) 当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案
- (5) 新株予約権の目的である種類の株式の内容として譲渡による当該種類の株式の取得について当社の承認を要すること若しくは当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案

その他の新株予約権の行使の条件

新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、当該新株予約権を行使することができない。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2013年10月16日 (注) 1	3,872,050	3,885,000	-	531,000	-	520,000
2013年12月23日 (注) 2	850,000	4,735,000	547,400	1,078,400	547,400	1,067,400
2014年1月23日 (注) 3	150,000	4,885,000	96,600	1,175,000	96,600	1,164,000
2013年12月24日～ 2014年3月31日 (注) 4	288,000	5,173,000	41,407	1,216,407	41,188	1,205,188
2014年4月1日～ 2015年3月31日 (注) 4	147,900	5,320,900	33,231	1,249,639	33,167	1,238,355
2015年4月1日～ 2016年3月31日 (注) 4	12,900	5,333,800	4,302	1,253,941	4,302	1,242,658
2016年6月10日 (注) 5	430,000	5,763,800	178,235	1,432,176	178,235	1,420,893
2016年4月1日～ 2017年3月31日 (注) 4	45,900	5,809,700	15,307	1,447,484	15,307	1,436,200
2017年4月1日～ 2018年3月31日 (注) 4	21,600	5,831,300	7,203	1,454,687	7,203	1,443,404

(注) 1. 2013年9月24日開催の取締役会決議により、1株を300株とする株式分割を行っております。

2. 有償一般募集(ブックビルディング方式による)

発行価格 1,400円

引受価格 1,288円

資本組入額 644円

3. 有償第三者割当(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)

割当先 いちよし証券株式会社

発行価格 1,288円

資本組入額 644円

4. 新株予約権の権利行使による増加であります。

5. 有償第三者割当

割当先 エムスリー株式会社、株式会社平田牧場、株式会社山形銀行、株式会社荘内銀行

発行価格 829円

資本組入額 414.5円

6. 2018年4月1日から2018年5月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が16,500株、資本金及び資本準備金がそれぞれ5,502千円増加しております。

(5) 【所有者別状況】

2018年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	7	26	39	19	5	4,638	4,734	-
所有株式数(単元)	-	6,721	3,621	7,770	1,021	7	39,153	58,293	2,000
所有株式数の割合(%)	-	11.53	6.21	13.33	1.75	0.01	67.17	100.00	-

(注) 自己株式34株は、「単元未満株式の状況」に含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2018年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
富田 勝	東京都港区	390,000	6.69
エムスリー株式会社	東京都港区赤坂1-11-44	280,000	4.80
曾我 朋義	山形県鶴岡市	210,000	3.60
株式会社平田牧場	山形県酒田市みずほ2-17-8	200,000	3.43
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1-13-1	170,000	2.92
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	153,300	2.63
西岡 孝明	奈良県生駒市	150,000	2.57
株式会社山形銀行	山形県山形市七日町3-1-2	150,000	2.57
株式会社荘内銀行	山形県鶴岡市本町1-9-7	150,000	2.57
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	東京都中央区晴海1-8-12	117,700	2.02
計	-	1,971,000	33.80

(7)【議決権の状況】

【発行済株式】

2018年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,829,300	58,293	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 2,000	-	-
発行済株式総数	5,831,300	-	-
総株主の議決権	-	58,293	-

【自己株式等】

2018年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	34	67,388
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式には、2018年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(-)	-	-	-	-
保有自己株式数	34	-	34	-

(注) 1. 当期間における処理自己株式には、2018年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式数には、2018年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

3【配当政策】

当社は中間配当を行うことができる旨を定款に定めており、配当に関しては年1回の期末配当並びに業績に応じて中間配当を行うことを基本方針としております。これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

第15期事業年度末においては未だ繰越利益剰余金がマイナスであり、バイオマーカーの開発や海外展開等に必要な資金を確保するため、内部留保の充実を優先する方針であります。

しかしながら、株主の皆様への利益還元も重要な経営課題として認識しており、今後の経営成績及び財政状態を勘案し、配当の実施を検討してまいります。

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第11期	第12期	第13期	第14期	第15期
決算年月	2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月
最高(円)	5,920	2,588	1,249	2,890	2,395
最低(円)	1,655	1,100	695	789	1,566

(注) 1. 当社株式は、2013年12月24日から東京証券取引所(マザーズ)に上場されております。それ以前については、該当事項はありません。

2. 最高・最低株価は、東京証券取引所(マザーズ)におけるものであります。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	2017年10月	11月	12月	2018年1月	2月	3月
最高(円)	2,105	2,235	2,083	2,180	2,063	2,395

月別	2017年10月	11月	12月	2018年 1月	2月	3月
最低(円)	1,657	1,846	1,920	1,975	1,686	1,838

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所(マザーズ)におけるものであります。

5【役員の状況】

男性5名 女性1名 (役員のうち女性の比率 16.7%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
代表取締役社長	-	菅野隆二	1950年3月23日生	1974年4月 横河・ヒューレット・パッカード株式会社(現日本ヒューレット・パッカード株式会社)入社 1999年11月 横河アナリティカルシステムズ株式会社代表取締役社長兼事業本部長 2006年5月 同社代表取締役社長兼営業統括本部長 2007年2月 アジレント・テクノロジー株式会社代表取締役副社長兼ライフサイエンス・化学分析統括本部長 2008年2月 当社代表取締役社長 2012年4月 当社代表取締役社長兼メタボローム解析事業部長 2012年10月 Human Metabolome Technologies America, Inc. 取締役(現任) 2013年9月 当社代表取締役社長(現任) 2016年1月 HMTバイオメディカル株式会社取締役(現任) 2017年5月 Human Metabolome Technologies Europe B.V. 取締役(現任)	(注) 1	78,300
取締役	研究開発本部長 兼 バイオマーカー事業管掌	大橋由明	1971年8月3日生	1999年10月 農林水産省食品総合研究所(現独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構・食品総合研究所)開放的融合研究特別研究員 2001年4月 慶應義塾大学環境情報学部助手 2004年4月 当社入社 2010年6月 当社取締役バイオマーカー・分子診断事業部長 2014年6月 当社取締役研究開発本部長 2016年1月 HMTバイオメディカル株式会社取締役 2016年7月 当社取締役研究本部長 兼 事業開発室長 2017年10月 当社取締役研究本部長 兼 バイオマーカー事業・技術開発本部管掌 HMTバイオメディカル株式会社代表取締役社長(現任) 2018年4月 当社取締役研究開発本部長 兼 バイオマーカー事業管掌(現任)	(注) 1	9,000
取締役	経営管理本部長	長谷川哲也	1967年7月24日生	1996年6月 公認会計士登録 2001年1月 楽天株式会社入社 財務経理部副部長 2005年5月 同社執行役員経理業務部長 2006年11月 同社執行役員経理本部長代行 2008年3月 オイシックス株式会社(現オイシックスドット大地)入社 管理部長 2008年7月 同社執行役員管理本部本部長 2009年6月 同社取締役執行役員管理本部本部長 2015年8月 同社取締役執行役員管理本部本部長 2016年1月 当社入社 経営管理本部長 HMTバイオメディカル株式会社監査役(現任) 2016年6月 当社取締役経営管理本部長(現任)	(注) 1	30,000

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
取締役 (監査等委員)	-	長江敏男	1943年12月2日生	1967年4月 塩野義製菓株式会社入社 1970年10月 アイ・シー・アイファーマ株式会社(現アストラゼネカ株式会社)入社 1981年6月 シェリング・プラウ株式会社入社 1997年5月 ローヌ・プーランローラー株式会社(現サノフィ株式会社)入社 2000年1月 アベンティスファーマ株式会社(現サノフィ株式会社)執行役員 2003年5月 株式会社シミックエムピーエスエス(現シミック・アッシュフィールド株式会社)代表取締役社長 2003年6月 株式会社PCN(現シミックホールディングス株式会社)代表取締役社長兼任 2005年10月 ヨーク・ファーマ株式会社 代表取締役社長 2010年1月 Pharma Business Consultant 設立 代表(現任) 2014年4月 岐阜薬科大学 客員教授(現任) 2015年9月 ペプチドリーム株式会社 取締役(監査等委員)(現任) 2017年6月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注)2、4	3,000
取締役 (監査等委員)	-	松田純一	1960年5月4日生	1993年4月 東京弁護士会登録 2002年8月 松田純一法律事務所(現松田総合法律事務所)所長(現任) 2007年4月 ネクスト・キャピタル・パートナーズ株式会社監査役(現任) 2013年2月 Dua & Matsuda Advisory株式会社代表取締役(現任) 2014年4月 東京弁護士会副会長 2014年9月 株式会社グローバルダイニング監査役 2014年10月 大和ハウス不動産投資顧問株式会社監査役(現任) 2015年6月 当社監査役 2016年3月 株式会社グローバルダイニング取締役(監査等委員) 2017年6月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注)2、4	-
取締役 (監査等委員)	-	水谷翠	1980年7月30日生	2004年7月 公認会計士・税理士菅井会計事務所入所 2012年8月 公認会計士登録 2013年6月 水谷翠会計事務所所長(現任) 2015年2月 スマート・プラス・コンサルティング株式会社代表取締役(現任) 2015年6月 当社監査役 2017年6月 当社取締役(監査等委員)(現任)	(注)2、4	-
計						120,300

- (注) 1. 監査等委員以外の取締役の任期は、2018年3月期に係る定時株主総会終結の時から2019年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
2. 監査等委員である取締役の任期は、2017年3月期に係る定時株主総会終結の時から2019年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
3. 2017年6月24日開催の定時株主総会において定款の変更が決議されたことにより、当社は同日付をもって監査等委員会設置会社に移行しております。
4. 長江敏男氏、松田純一氏及び水谷翠氏は、社外取締役であります。
5. 所有株式数は、2018年5月31日現在のものであります。
6. 当社は、法令に定める監査等委員である取締役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠の監査等委員である取締役1名を選任しております。補欠の監査等委員である取締役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数(株)
鈴木布佐人	1949年9月30日生	1972年4月 株式会社富士銀行(現株式会社みずほフィナンシャルグループ)入行 2003年8月 株式会社荘内銀行理事法人業務部部长 2008年6月 同行常務執行役法人営業本部長 2009年6月 当社監査役 2009年10月 株式会社荘内銀行常務取締役 兼 常務執行役員法人営業本部長 2013年6月 同行専務取締役 兼 専務執行役員 2014年6月 フィデアホールディングス株式会社理事 株式会社荘内銀行理事(現任) 2015年6月 当社取締役 2017年3月 株式会社ナカニシ取締役(現任)	200

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社グループは、経営の健全性及び透明性を高め、経営の効率化を図ることが、企業価値を高めていくと考えております。このため、コーポレート・ガバナンスの充実を経営上の重要な課題の一つとして位置づけ、業務執行に対する監督機能の強化や、内部統制システムによる業務執行の有効性、効率性、遵法性のチェック・管理を通じて、経営の健全性及び透明性を高め、経営の効率化に取り組んでおります。また、「共有の価値観」を全役員及び従業員へ周知し、長期的な観点から法令遵守を徹底し、各ステークホルダーと調和した行動を促しております。

企業統治の体制

当社は、2017年6月24日開催の定時株主総会の承認を得て、会社法に定める監査等委員会設置会社制度を採用しております。取締役会は、経営上の重要事項に係る意思決定及び取締役の業務執行の監督機関として機能し、監査等委員会は取締役の職務執行を監査しております。当社は、組織規程、業務分掌規程、職務権限規程、稟議規程等の諸規程を整備・遵守することにより、業務分担及び責任体制を明確にし、内部牽制機能が適切に働くよう努めております。また、内部監査人は、業務の効率性、遵法性、適正性の向上を図り、財産の保全と財務報告の信頼性の確保に資することを目的として、内部統制システムの有効性を検証しております。さらに、内部監査人と監査等委員会、会計監査人が適正かつ効率的に監査を進めるため、随時情報交換を行うよう努めております。

イ．取締役会

取締役会は、社外取締役3名を含む6名で構成されております。取締役会は原則毎月1回又は必要に応じて随時臨時取締役会を開催し、経営の基本方針、経営上の重要事項の意思決定、業務施策の進捗状況の確認等、重要な意思決定機関として、機動的な運用をしております。

当社は、会社法第427条第1項の規定により、取締役（業務執行取締役又は支配人その他の使用人である者を除く）との間に、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款に定めております。これに基づき、当社と社外取締役との間で責任限定契約を締結しております。なお、当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額であります。

ロ．監査等委員会

監査等委員会は、監査等委員である社外取締役3名で構成されております。監査等委員である取締役は、必要に応じて、社内の重要な会議への出席や、重要な稟議書類等を閲覧する等の監査手続を実施します。また、代表取締役や会計監査人と随時面談を行い、情報交換に努めております。

ハ．コンプライアンス委員会

当社は、リスク発生時に迅速な対応を図るため、社長直轄の組織として常勤取締役、経営管理本部長、人事担当部長等から構成されるコンプライアンス委員会を必要に応じて設置します。コンプライアンス委員会は、コンプライアンスに係る取組みを推進する他、コンプライアンス違反の事例が生じた場合には、コンプライアンス委員会を開催し、事実関係の調査、被害を最小限にとどめるための対応、再発防止策の立案を行います。

ニ．職務発明審査会

当社は、研究開発の過程で生じた職務発明について審査を行うため、社長を委員長とする職務発明審査会を設置し、発明の承継について審査を行っております。

ホ．遺伝子組換え実験安全委員会

当社は、遺伝子組換え実験及びこれに準ずる実験の安全かつ適切な実施のため、社長の諮問機関として遺伝子組換え実験安全委員会を設置し、遺伝子組換え実験及びこれに準ずる実験に関する調査、審議を行い、審議結果を社長へ報告しております。

ヘ．研究倫理審査委員会

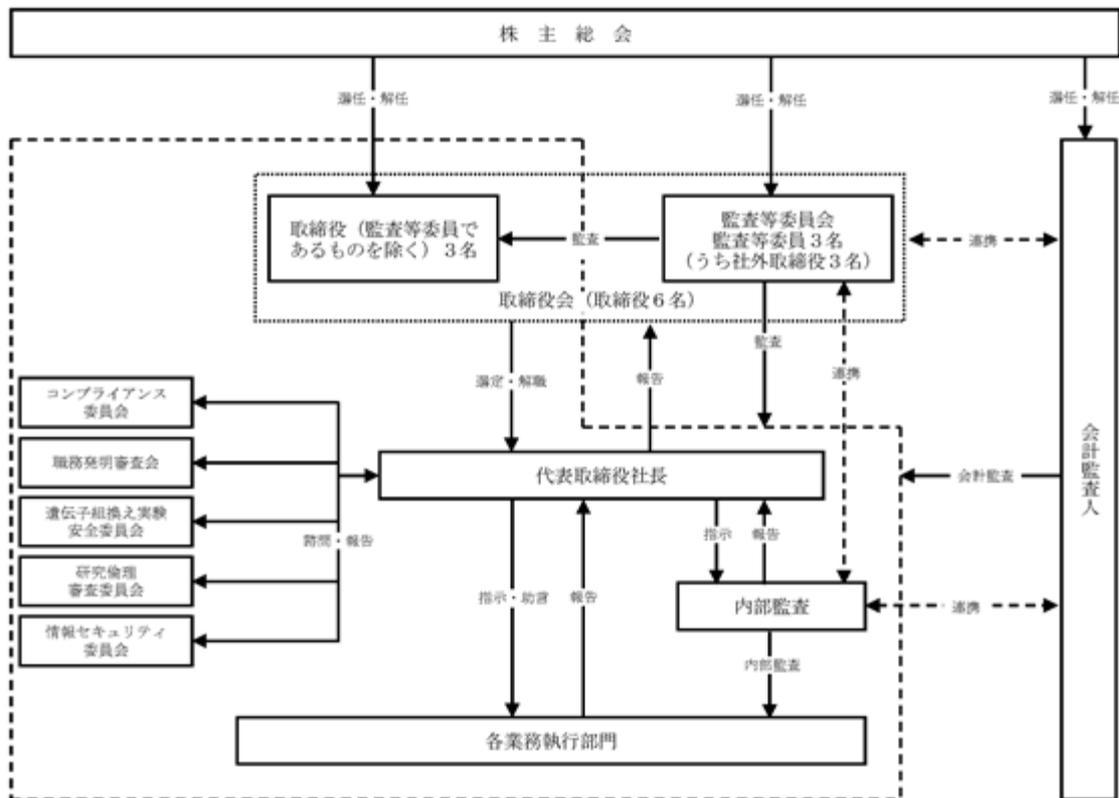
当社は、ヒトの生体試料を使用する研究計画について倫理面の審査を行うため、社長の諮問機関として研究倫理審査委員会を設置し、ヒトの生体試料を使用する研究計画について科学的妥当性を考慮の上、倫理的配慮が図られているかという視点から審査し、審査結果を社長に報告しております。

ト．情報セキュリティ委員会

当社は、情報セキュリティを維持し、全社的なマネジメント体制を整えるため、情報セキュリティ委員会を設置しております。

チ．コーポレート・ガバナンスの体制

当社の機関及びコーポレート・ガバナンスの体制は、次のとおりであります。



リ．内部統制システムの整備状況

当社は、「内部統制システム構築に関する基本方針」を定め、内部管理体制の整備を図ることとしております。取締役会においては、法令、定款及び諸規程の定めるところにより、経営に関する重要事項等について意思決定を行うとともに、各取締役の職務執行を監督しております。

子会社の業務の適正を確保するための体制につきましては、関係会社管理規程に基づき重要議案の事前協議を定めている他、ITを活用し随時会計、経営情報を共有できる体制を構築し、経営状況のモニタリング体制を構築しております。こうした取組みを通じ、企業集団としての業務の効率化及び適正化に努めております。

ヌ．リスク管理体制の整備の状況

当社では、業務上発生する可能性のある様々なリスクを適切に管理するために、リスク発生時には関連部署から経営管理本部に対して適時報告をする体制を構築するとともに、全部門長に対して迅速な報告を義務付けております。経営管理本部では関連部署からの報告を受けた場合には、社長や監査等委員会に随時報告するとともに、社長は、必要に応じてコンプライアンス委員会を設置します。コンプライアンス委員会は常勤取締役、経営管理本部長、人事担当部長等から構成され、事実関係の調査、被害を最小限にとどめるための対応、再発防止策の立案を行います。コンプライアンス委員会は、必要に応じて外部の専門家からのヒアリングを行い、当該見解を踏まえた上で、リスクを最小限に管理するための対応策について慎重に検討を行い、対応策を決定し各部署へ指示します。

当社では、リスク発生時にコンプライアンス委員会を中心としてリスクへの対応を行う他、リスク発生を予防する観点から、内部監査の実施や当社の「共有の価値観」を記載した社員証兼クレドカードを全役員及び従業員に配布し、周知に取り組んでおります。

内部監査及び監査等委員会監査

内部監査担当者は2名（経営管理本部から1名・経営管理本部以外から1名）であり、年間計画に従い、全ての部署を対象に、業務全般にわたり監査を実施し、監査結果は書面により社長に報告され、監査等委員会にもその写しを提出します。

監査等委員会は、必要に応じて、社内の重要な会議への出席や、重要な稟議書類等を閲覧する等の監査手続を実施します。また、監査等委員会には弁護士や公認会計士が含まれ、財務及び会計に関する相当程度の知見に基づき監査を行うとともに、適時会計監査人と会合を持ち、監査に関する情報や意見交換を行う等連携を図っております。

内部監査と監査等委員会監査の連携については、内部監査担当者による監査結果の監査等委員会への報告及び意見交換を行い、監査の効率性・実効性を高めております。

社外取締役

当社の監査等委員である取締役3名は、全員社外取締役であります。当社は、コーポレート・ガバナンス向上のためには、中立で客観的な立場からのモニタリングが重要と考えており、企業経営への理解があり、当社経営者から独立性を有する社外取締役を選任しております。

社外取締役長江敏男氏は、医薬品業界において、経営者として豊富な経験と幅広い見識を有しており、その経験や見識を活かし、当社の業務執行に関する意思決定の適法性・妥当性の確保及び経営の監視・監督の見地から適切な提言をいただけるものと期待されることから社外取締役として選任しております。なお、同氏は、ペプチドリーム株式会社取締役（監査等委員）を兼務しております。

社外取締役松田純一氏は、弁護士として豊富な経験と幅広い見識を有しており、2017年6月までの2年間にわたり当社の社外監査役として有益な意見や率直な指摘をいただいていたことから、社外取締役として選任しております。なお、同氏は、松田総合法律事務所所長を兼務しており、当社は松田総合法律事務所と顧問契約を締結しております。

社外取締役水谷翠氏は、公認会計士として豊富な経験と幅広い見識を有しており、2017年6月までの2年間にわたり当社の社外監査役として有益な意見や率直な指摘をいただいていたことから、社外取締役として選任しております。なお、同氏は、水谷翠会計事務所所長を兼務しております。

当社と社外取締役との間には、上記以外の人的関係、資金的関係又は取引関係その他の利害関係はありません。

当社は、「独立社外役員の選任基準」を定めており、社外取締役は、以下の全ての要件を満たすことを選任基準としております。

イ．企業集団関連要件

- ・当社又は当社の現在の子会社の業務執行取締役等でなく、かつ、就任の前10年に業務執行取締役等でないこと。
- ・当社の現在の親会社又は兄弟会社の取締役等でなく、かつ、最近5年間に親会社等の取締役であった者でないこと。

ロ．主要株主関連要件

- ・現在の主要株主（個人）又は主要株主である法人の親会社、重要な子会社の取締役でなく、最近5年間に親会社等に該当したことがないこと。
- ・当社が主要株主である会社の取締役等に該当しないこと。

ハ．取引先、出資先関連要件

- ・以下の者の親会社、重要な子会社の業務執行取締役でなく、かつ、過去3年間に親会社等に該当したことがないこと。
当社又は当社子会社を主要な取引先としている者
当社又は当社子会社の主要な取引先
当社の大口債権者
- ・当社又は当社の子会社から一定額を超える寄付又は助成を受けている組織の業務執行者でないこと。

ニ．アドバイザー関連要件

- ・現在当社又はその子会社の会計監査人である監査法人等の社員、パートナー又は従業員でなく、過去3年間に親会社等に該当する場合には、当社又はその子会社の監査業務を実際に担当していないこと。
- ・弁護士、公認会計士、税理士その他のコンサルタント又は専門家であって、役員報酬以外に当社又は子会社から過去3年間の平均で年間1,000万円以上の金銭、その他の財産上の利益を受けていないこと。

- ・外部の法律事務所、監査法人、税理士法人その他のコンサルティングファーム又はアドバイザーファームであって、当社又はその子会社を主要な取引先とするファームの社員、パートナー、又は従業員でないこと。

ホ．近親者関連要件

- ・近親者が上記いずれにも該当しないこと。

ヘ．その他要件

- ・当社又はその子会社から取締役を受け入れている会社又はその親会社、子会社の取締役等ではないこと。
- ・就任期間が、8年を超えていないこと。

役員の報酬等

イ．提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	
取締役(監査等委員及び社外 取締役を除く。)	76,300	70,100	6,200	-	6
監査役 (社外監査役を除く。)	1,560	1,560	-	-	1
社外役員	6,990	6,182	808	-	6

ロ．役員の報酬等の額の決定に関する方針

(監査等委員会設置会社移行前)

株主総会において決議された報酬の範囲内において、取締役報酬については、会社の業績やその他職務の執行状況を勘案し、毎年7月から1年間の報酬を決定し、監査役報酬については監査役同士の協議により決定しております。

(監査等委員会設置会社移行後)

株主総会において決議された報酬の範囲内において、取締役(監査等委員である取締役を除く。)報酬については、会社の業績やその他職務の執行状況を勘案し、毎年7月から1年間の報酬を決定し、監査等委員である取締役報酬については監査等委員である取締役の協議により決定しております。

ハ．使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

株式の保有状況

該当事項はありません。

会計監査の状況

当社は、有限責任監査法人トーマツと監査契約を締結し、同法人による金融商品取引法に基づく監査を受けております。当社は、監査の結果として監査法人より是正勧告や改善提案等の指摘を受け、これら指摘事項に関する是正改善を必要に応じて実施しております。

第15期事業年度において業務を執行した公認会計士の氏名及び業務に係る補助者の構成は次のとおりであります。継続監査に関しては、全員が7年以内のため記載を省略しております。

a．業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員 城戸 和弘
指定有限責任社員 業務執行社員 永田 立

b．業務に係る補助者の構成

公認会計士 6名
その他 7名

取締役会で決議できる株主総会決議事項

イ．中間配当

当社は、機動的な資本政策及び配当政策を図るため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

ロ．取締役の責任免除

当社は、適切な人材の招聘を容易にし、職務の遂行にあたり期待される役割を十分発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

取締役の選任決議要件

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く。）は9名以内、監査等委員である取締役は4名以内とする旨を定款で定めております。また、取締役の選任決議について、株主総会で議決権を行使できる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める特別決議について、議決権を行使できる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	14,000	-	16,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	14,000	-	16,000	-

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

当社の連結子会社であるHuman Metabolome Technologies America, Inc.は、当社の監査公認会計士等と同一ネットワークに属しているデロイトトウシュLLPに対して、税務申告業務の対価として、1,239千円(11千米ドル)を支払っております。

(当連結会計年度)

当社の連結子会社であるHuman Metabolome Technologies America, Inc.は、当社の監査公認会計士等と同一ネットワークに属しているデロイトトウシュLLPに対して、税務申告業務の対価として、1,268千円(11千米ドル)を支払っております。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案の上決定しております。

第5【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2017年4月1日から2018年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2017年4月1日から2018年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、開示支援専門会社等からの印刷物やメールなどによる情報提供等を通じて、積極的に情報収集に努めることにより、会計基準等の内容の適切な把握、変更等への適確な対応を行っております。

また、会計基準等の内容を的確に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、企業会計基準等の内容を優先的に入手しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当連結会計年度 (2018年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,520,341	1,261,379
売掛金	167,420	220,334
有価証券	100,000	200,190
商品	11,232	14,829
仕掛品	2,915	2,402
原材料及び貯蔵品	8,625	9,568
その他	24,138	54,274
流動資産合計	1,834,673	1,762,979
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	19,755	21,735
工具、器具及び備品	287,500	325,880
リース資産	108,061	136,892
減価償却累計額	343,452	344,778
有形固定資産合計	71,865	139,730
無形固定資産	4,480	8,936
投資その他の資産		
投資有価証券	101,062	-
その他	9,966	9,700
投資その他の資産合計	111,028	9,700
固定資産合計	187,373	158,367
資産合計	2,022,047	1,921,347
負債の部		
流動負債		
買掛金	4	66
リース債務	2,749	9,452
未払法人税等	35,244	7,510
その他	107,521	105,008
流動負債合計	145,519	122,038
固定負債		
リース債務	-	31,751
繰延税金負債	3,354	954
資産除去債務	13,760	13,885
固定負債合計	17,114	46,592
負債合計	162,634	168,630
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,447,484	1,454,687
資本剰余金	1,436,200	1,443,404
利益剰余金	1,048,587	1,205,115
自己株式	-	67
株主資本合計	1,835,097	1,692,909
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	12,245	20,196
その他の包括利益累計額合計	12,245	20,196
新株予約権	12,070	39,611
純資産合計	1,859,413	1,752,717
負債純資産合計	2,022,047	1,921,347

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
売上高	914,180	938,178
売上原価	185,079	195,724
売上総利益	729,101	742,453
販売費及び一般管理費	1, 2 772,433	1, 2 883,368
営業損失()	43,332	140,914
営業外収益		
受取利息及び配当金	906	909
補助金収入	3,873	2,167
為替差益	2,001	-
受取賃貸料	1,000	2,000
その他	121	931
営業外収益合計	7,903	6,007
営業外費用		
支払利息	377	572
株式交付費	4,399	150
為替差損	-	13,686
その他	203	387
営業外費用合計	4,981	14,797
経常損失()	40,410	149,703
特別利益		
固定資産売却益	-	3 530
特別利益合計	-	530
税金等調整前当期純損失()	40,410	149,173
法人税、住民税及び事業税	23,929	9,753
法人税等調整額	2,425	2,399
法人税等合計	21,503	7,354
当期純損失()	61,913	156,527
親会社株主に帰属する当期純損失()	61,913	156,527

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
当期純損失()	61,913	156,527
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1,110	7,950
その他の包括利益合計	1,110	7,950
包括利益	63,024	148,577
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	63,024	148,577
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2016年4月1日 至 2017年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本					その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,253,941	1,242,658	986,673	-	1,509,925	13,355	13,355	-	1,523,281
当期変動額									
新株の発行	193,542	193,542			387,085				387,085
親会社株主に帰属する当期純損失（ ）			61,913		61,913				61,913
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						1,110	1,110	12,070	10,960
当期変動額合計	193,542	193,542	61,913	-	325,171	1,110	1,110	12,070	336,131
当期末残高	1,447,484	1,436,200	1,048,587	-	1,835,097	12,245	12,245	12,070	1,859,413

当連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本					その他の包括利益累計額		新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	1,447,484	1,436,200	1,048,587	-	1,835,097	12,245	12,245	12,070	1,859,413
当期変動額									
新株の発行	7,203	7,203			14,407				14,407
親会社株主に帰属する当期純損失（ ）			156,527		156,527				156,527
自己株式の取得				67	67				67
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						7,950	7,950	27,541	35,491
当期変動額合計	7,203	7,203	156,527	67	142,188	7,950	7,950	27,541	106,696
当期末残高	1,454,687	1,443,404	1,205,115	67	1,692,909	20,196	20,196	39,611	1,752,717

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純損失()	40,410	149,173
減価償却費	53,245	61,470
受取利息及び受取配当金	906	909
受取賃貸料	1,000	2,000
支払利息	377	572
為替差損益(は益)	2,630	7,510
補助金収入	3,873	2,167
株式報酬費用	12,070	27,541
株式交付費	4,399	150
売上債権の増減額(は増加)	14,415	54,189
たな卸資産の増減額(は増加)	3,040	4,027
仕入債務の増減額(は減少)	4	62
未払金の増減額(は減少)	6,891	1,046
未払費用の増減額(は減少)	2,279	3,470
未払又は未収消費税等の増減額	4,657	3,202
その他	28,077	38,161
小計	42,493	147,695
利息及び配当金の受取額	1,805	1,780
賃貸料の受取額	750	2,425
利息の支払額	354	572
補助金の受取額	3,062	2,209
補助金の返還額	24	552
法人税等の支払額	2,532	35,791
営業活動によるキャッシュ・フロー	45,199	178,196
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	31,603	84,519
有形固定資産の売却による収入	-	3,000
無形固定資産の取得による支出	3,395	4,838
その他	792	812
投資活動によるキャッシュ・フロー	34,205	87,170
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	14,420	-
株式の発行による収入	382,685	14,257
リース債務の返済による支出	13,604	9,282
自己株式の取得による支出	-	67
財務活動によるキャッシュ・フロー	354,660	4,907
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,164	1,498
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	367,819	258,962
現金及び現金同等物の期首残高	1,252,522	1,620,341
現金及び現金同等物の期末残高	1,620,341	1,361,379

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 3社

連結子会社の名称

Human Metabolome Technologies America, Inc.

Human Metabolome Technologies Europe B.V.

HMTバイオメディカル株式会社

上記のうち、Human Metabolome Technologies Europe B.V. については、当連結会計年度において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 非連結子会社

該当事項はありません。

2 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

a 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

b その他有価証券

時価のあるもの

投資信託のうち預金と同様の性格を有する有価証券については、移動平均法による原価法

たな卸資産

a 商品

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

b 仕掛品

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

c 原材料及び貯蔵品

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び国内連結子会社は定率法を、在外連結子会社は定額法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 3年～18年

工具、器具及び備品 2年～10年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(3～5年)で償却しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(5) 重要な繰延資産の処理方法

株式交付費

支出時に全額費用として処理しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクが負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
役員報酬	99,676千円	102,045千円
給与手当	167,893千円	183,167千円
研究開発費	209,861千円	235,752千円

2 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
	209,861千円	235,752千円

3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
工具、器具及び備品	- 千円	530千円
計	- 千円	530千円

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
為替換算調整勘定		
当期発生額	1,110千円	7,950千円
その他の包括利益合計	1,110千円	7,950千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	5,333,800	475,900	-	5,809,700

(変動事由の概要)

増加の内訳は以下のとおりであります。

第三者割当増資による増加 430,000株

新株の発行(新株予約権の行使)

ストックオプションの権利行使による増加 45,900株

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会 社)	ストック・オプション としての新株予約 権	-	-	-	-	-	12,070
合計		-	-	-	-	-	12,070

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	5,809,700	21,600	-	5,831,300

(変動事由の概要)

増加の内訳は以下のとおりであります。

新株の発行(新株予約権の行使)

ストックオプションの権利行使による増加 21,600株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
自己株式(株)	-	34	-	34

(変動事由の概要)

増加の内訳は以下のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 34株

3 新株予約権等に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会 社)	ストック・オプション としての新株予約 権	-	-	-	-	-	39,611
合計		-	-	-	-	-	39,611

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
現金及び預金	1,520,341千円	1,261,379千円
有価証券	100,000千円	100,000千円
現金及び現金同等物	1,620,341千円	1,361,379千円

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、メタボローム解析事業における解析用分析設備(工具、器具及び備品)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主にメタボローム解析を行うための質量分析装置等の設備投資や運転資金について、必要な資金を新株発行等により調達しております。一時的な余裕資金については安全性の高い金融資産で運用し、デリバティブ取引は原則として行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客や取引先の信用リスクに晒されております。また、外貨建ての営業債権債務は為替の変動リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、主に満期保有目的の債券及び公社債投資信託であり、信用リスク及び金利の変動リスクに晒されております。

ファイナンス・リースに係るリース債務は、設備投資を目的としたものであり、金利の変動リスクに晒されております。これらは全て決算日後5年以内に返済期日が到来するものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権については販売管理規程及び与信管理規程に従い、経営管理本部が新規取引先の財務状況を確認し、また、主要な取引先の状況については定期的にモニタリングを実施し、営業債権の月末残高を基準に与信管理を行うことで、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握やリスクの軽減を図っております。

有価証券及び投資有価証券については、安全性の高い金融商品で運用することによりリスクの軽減を図っております。

為替の変動リスクの管理

一部外貨建ての営業債権債務については、金額が僅少でリスクが小さいため、為替予約取引によるヘッジは行っておりません。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

経営管理本部において適時資金繰計画を作成・更新し、毎月の固定的な支出額の4ヶ月から6ヶ月程度の資金を維持できるよう管理しております。

金利の変動リスクの管理

当社グループは、長期の研究開発及び設備投資に係る資金調達では、支払金利の変動リスクを回避するため、固定金利での資金調達に努めております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握し、満期保有目的の債券以外のものについては、市況等を勘案し保有状況を継続的に見直しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（2017年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,520,341	1,520,341	-
(2) 売掛金	167,420		
貸倒引当金	-		
	167,420	167,420	-
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	201,062	200,830	232
資産計	1,888,825	1,888,592	232
(2) リース債務	2,749	2,754	4
(3) 未払法人税等	35,244	35,244	-
負債計	37,993	37,998	4

当連結会計年度（2018年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,261,379	1,261,379	-
(2) 売掛金	220,334		
貸倒引当金	-		
	220,334	220,334	-
(3) 有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	200,190	200,210	19
資産計	1,681,904	1,681,923	19
(1) 買掛金	66	66	-
(2) リース債務	41,204	41,092	112
(3) 未払法人税等	7,510	7,510	-
負債計	48,781	48,669	112

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金

これらは全て短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価については、満期保有目的の債券は取引金融機関から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負債

(1) 買掛金

これらは全て短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) リース債務

これらの時価については、リース取引を行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算定しております。

(3) 未払法人税等

これらは全て短期で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2017年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,520,341	-	-	-
売掛金	167,420	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	100,000	100,000	-	-
合計	1,787,762	100,000	-	-

当連結会計年度(2018年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,261,379	-	-	-
売掛金	220,334	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	200,000	-	-	-
合計	1,681,713	-	-	-

(注3) 長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2017年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	2,749	-	-	-	-	-
合計	2,749	-	-	-	-	-

当連結会計年度(2018年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
リース債務	9,452	9,599	9,749	9,902	2,499	-
合計	9,452	9,599	9,749	9,902	2,499	-

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前連結会計年度(2017年3月31日)

(千円)

種類	連結貸借対照表計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を 超えないもの			
その他	201,062	200,830	232
小計	201,062	200,830	232
合計	201,062	200,830	232

当連結会計年度(2018年3月31日)

(千円)

種類	連結貸借対照表計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を 超えるもの			
その他	100,190	100,210	19
小計	100,190	100,210	19
時価が連結貸借対照表計上額を 超えないもの			
その他	100,000	100,000	-
小計	100,000	100,000	-
合計	200,190	200,210	19

2. その他有価証券

前連結会計年度(2017年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2018年3月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

1. 費用計上額及び科目名

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
販売費及び一般管理費	12,070	27,541

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第5回新株予約権	第6回新株予約権	第9回新株予約権
決議年月日	2008年8月7日	2010年12月8日	2013年2月13日
付与対象者の区分及び人数	取締役 2名 監査役 1名 従業員 19名	取締役 4名 監査役 1名 従業員 25名	従業員 8名
株式の種類別のストック・オプションの数 (注) 1	普通株式 93,000株 (注) 2	普通株式 177,000株 (注) 2	普通株式 33,000株 (注) 2
付与日	2008年8月7日	2010年12月17日	2013年3月1日
権利確定条件	<p>新株予約権の割当を受けた者が、権利行使時において当社の取締役、監査役又は従業員の地位を有していること、あるいは当社と顧問契約又は共同研究契約を締結していることを要する。ただし、定年退職その他取締役会が正当な理由があると認めた場合、相続により新株予約権を取得した場合はこの限りでない。</p> <p>当社普通株式が上場していることを要する。</p> <p>その他の権利の行使の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約による。</p>	<p>新株予約権の割当を受けた者が、権利行使時において当社の取締役、監査役又は従業員の地位を有していること、あるいは当社と顧問契約又は共同研究契約を締結していることを要する。ただし、定年退職その他取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りでない。</p> <p>当社普通株式が上場していることを要する。</p>	<p>新株予約権の割当を受けた者が、権利行使時において当社の取締役、監査役又は従業員の地位を有していることを要する。ただし、定年退職その他取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りでない。</p> <p>当社普通株式が上場していることを要する。</p>
対象勤務期間	定めておりません。		
権利行使期間	自 2010年8月8日 至 2018年5月31日	自 2012年12月18日 至 2020年5月31日	自 2015年3月2日 至 2022年5月31日
新株予約権の数(個) (注) 3	55	255	86
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び株式数 (注) 3	普通株式 16,500株	普通株式 76,500株	普通株式 25,800株
新株予約権の行使時の払込金額(円) (注) 4	667	667	667
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 667円 資本組入額 333.5円	発行価格 667円 資本組入額 333.5円	発行価格 667円 資本組入額 333.5円

	第5回新株予約権	第6回新株予約権	第9回新株予約権
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権の割当を受けた者が、権利行使時において当社の取締役、監査役又は従業員の地位を有していること、あるいは当社と顧問契約又は共同研究契約を締結していることを要する。ただし、定年退職その他取締役会が正当な理由があると認めた場合、相続により新株予約権を取得した場合はこの限りでない。</p> <p>当社普通株式が上場していることを要する。</p> <p>その他の権利の行使の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約による。</p>	<p>新株予約権の割当を受けた者が、権利行使時において当社の取締役、監査役又は従業員の地位を有していること、あるいは当社と顧問契約又は共同研究契約を締結していることを要する。ただし、定年退職その他取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りでない。</p> <p>当社普通株式が上場していることを要する。</p>	<p>新株予約権の割当を受けた者が、権利行使時において当社の取締役、監査役又は従業員の地位を有していることを要する。ただし、定年退職その他取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りでない。</p> <p>当社普通株式が上場していることを要する。</p>
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡については、取締役会の承認を要するものとする。		
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 5		

	第10回新株予約権	第11回新株予約権
決議年月日	2016年8月17日	2017年9月20日
付与対象者の区分及び人数	取締役 2名 従業員 26名	取締役 8名 従業員 28名
株式の種類別のストック・オプションの数 (注) 1	普通株式 93,000株	普通株式 72,500株
付与日	2016年8月17日	2017年10月5日
権利確定条件	新株予約権者が、権利行使時において当社又は当社関係会社の役員又は従業員のいずれかの地位を有していることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他当社が正当な理由があると認めた場合はこの限りではない。	
対象勤務期間	定めておりません。	
権利行使期間	自 2018年9月2日 至 2023年9月1日	自 2019年10月6日 至 2024年10月5日
新株予約権の数(個) (注) 3	780	675
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び株式数 (注) 3	普通株式 78,000株	普通株式 67,500株
新株予約権の行使時の払込金額(円) (注) 4	1,089	1,682
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額	発行価格 1,089円 資本組入額 544.5円	発行価格 1,682円 資本組入額 841円
新株予約権の行使の条件	新株予約権の割当を受けた者は、権利行使時において当社又は当社関係会社の役員又は従業員の地位を有していることを要する。ただし、任期満了により退任した場合、定年退職した場合等、当社が正当な理由があると認めた場合を除く。その他の条件については、当社と割当対象者との間で締結する「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。	
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡については、取締役会の承認を要するものとする。	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 5	

(注) 1. 株式数に換算して記載しております。

2. 2013年10月16日付で1株につき300株の割合で株式分割を行っているため、当該株式分割による調整後の株式数を記載しております。

3. 当連結会計年度末における内容を記載しております。なお、有価証券報告書提出日の属する月の前月末（2018年5月31日）現在においての状況につきましては下表のとおりです。

	第6回 新株予約権	第9回 新株予約権	第10回 新株予約権	第11回 新株予約権
新株予約権の数（個）	255	86	720	585
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び株式数	普通株式 76,500株	普通株式 25,800株	普通株式 72,000株	普通株式 58,500株

4. 調整前行使価額を下回る価額で、新株を発行又は自己株式を処分する場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新規発行前の株価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行による増加株式数}}$$

上記算式において、「既発行株式数」とは、発行済株式総数から当社が保有する自己株式数を控除した数とし、自己株式を処分する場合には「新規発行」を「自己株式の処分」、「1株当たり払込金額」を「1株当たり処分金額」と読み替えるものとする。さらに、割当日以降、資本の減少、合併又は会社分割等、株式の行使価額を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、資本の減少、合併又は会社分割等の条件等を勘案の上、当社は合理的な範囲で行使価額の調整を行う。

なお、株式分割、株式併合又は株式無償割当てを行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整による1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合・無償割当ての比率}}$$

5. 合併（合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ分割会社となる場合に限る。）、又は株式交換もしくは株式移転（それぞれ完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併の効力発生日、新設合併につき新設合併設立会社成立の日、吸収分割につき吸収分割の効力発生日、新設分割につき新設分割設立会社の成立の日、株式交換につき株式交換の効力発生日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。）の直前において残存する新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という。）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。この場合において、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を新たに発行するものとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めることを条件とする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付するものとする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案の上、上記3に準じて決定する。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、上記4で定める行使価額と組織再編行為の条件等を勘案の上、調整して得られる再編後払込金額に上記に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。

新株予約権を行使することができる期間

上記新株予約権の行使期間に定める行使期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうち、いずれか遅い日から、当初の上記新株予約権の行使期間に定める期間の満了日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

上記「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の承認を要するものとする。

新株予約権の行使の条件及び取得条項

上記「新株予約権の行使の条件」及び以下に準じて決定する。

以下の(1)、(2)、(3)、(4)又は(5)の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要の場合は、当社の取締役会決議がなされた場合）は、当社取締役会が別途定める日に、当社は無償で新株予約権を取得することができる。

- (1) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案
- (2) 当社が分割会社となる分割契約若しくは分割計画承認の議案

- (3) 当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案
- (4) 当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案
- (5) 新株予約権の目的である種類の株式の内容として譲渡による当該種類の株式の取得について当社の承認を要すること若しくは当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案
- その他の新株予約権の行使の条件
- 新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、当該新株予約権を行使することができない。

(追加情報)

「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2)新株予約権等の状況 ストックオプション制度の内容」に記載すべき事項をストック・オプション等関係注記に集約して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(2018年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第5回新株予約権	第6回新株予約権	第9回新株予約権
権利確定前(株)(注)			
前連結会計年度末	-	-	-
付与	-	-	-
失効・消却	-	-	-
権利確定	-	-	-
未確定残	-	-	-
権利確定後(株)			
前連結会計年度末	26,100	85,500	28,800
権利確定	-	-	-
権利行使	9,600	9,000	3,000
失効・消却	-	-	-
未行使残	16,500	76,500	25,800

	第10回新株予約権	第11回新株予約権
権利確定前(株)(注)		
前連結会計年度末	93,000	-
付与	-	72,500
失効・消却	15,000	5,000
権利確定	-	-
未確定残	78,000	67,500
権利確定後(株)		
前連結会計年度末	-	-
権利確定	-	-
権利行使	-	-
失効・消却	-	-
未行使残	-	-

(注) 第5回、第6回及び第9回株式数については、2013年10月16日付で1株につき300株の割合で株式分割を行っているため、当該株式分割による調整後の株式数を記載しております。

単価情報

	第5回新株予約権	第6回新株予約権	第9回新株予約権
権利行使価格(円)(注)	667	667	667
行使時平均株価(円)	1,015	2,016	1,640
付与日における公正な評価単価(円)	-	-	-

	第10回新株予約権	第11回新株予約権
権利行使価格(円)(注)	1,089	1,682
行使時平均株価(円)	-	-
付与日における公正な評価単価(円)	445	719

(注) 第5回、第6回及び第9回株式数については、2013年10月16日付で1株につき300株の割合で株式分割を行っているため、当該株式分割による調整後の権利行使価格を記載しております。

3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

当連結会計年度において付与された第11回新株予約権についての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりであります。

使用した評価方法 ブラック・ショールズ式

主な算定数値及び見積方法

	第11回新株予約権
株価変動性(注)1	54%
予想残存期間(注)2	4.5年
予想配当(注)3	-円
無リスク利率(注)4	0.11%

- (注) 1. 上場来(2013年12月から2017年9月まで)の株価実績に基づき算定しております。
2. 十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積もりが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっております。
3. 2017年3月期の配当実績によっております。
4. 予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

5. 当連結会計年度末における本源的価値の合計額及び当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

当連結会計年度末における本源的価値の合計額

325,416千円

当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

29,070千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当連結会計年度 (2018年3月31日)
繰延税金資産		
流動資産		
未払事業税	3,696千円	2,188千円
繰延税金資産小計	3,696千円	2,188千円
評価性引当額	3,696千円	2,188千円
固定資産		
資産除去債務	4,191千円	4,229千円
減価償却超過額	881千円	711千円
繰越欠損金	193,083千円	229,946千円
繰延税金資産小計	198,156千円	234,887千円
評価性引当額	198,156千円	234,887千円
繰延税金資産合計	-千円	-千円
固定負債		
資産除去債務に対応する除去費用	1,163千円	954千円
固定資産圧縮積立金	2,190千円	-千円
繰延税金負債合計	3,354千円	954千円
差引：繰延税金資産（負債）の純額	3,354千円	954千円

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金負債の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当連結会計年度 (2018年3月31日)
固定負債 - 繰延税金負債	3,354千円	954千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2017年3月31日)	当連結会計年度 (2018年3月31日)
法定実効税率	30.7%	30.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.3%	6.3%
住民税均等割等	9.2%	2.1%
試験研究費等の税額控除	14.2%	1.8%
評価性引当額の増減額	87.2%	23.6%
繰越欠損金期限切れ	- %	4.1%
連結子会社の税率差異	4.8%	0.5%
当期実効税率と将来の負担税率との差異の影響	2.4%	- %
その他	2.9%	1.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	53.2%	4.9%

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(報告セグメントの概要)

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、C E - M S法によるメタボローム解析技術を基盤に事業を展開しており、そのサービス、製品、収益モデル等を勘案し、報告セグメントを「メタボローム解析事業」、「バイオマーカー事業」としております。

「メタボローム解析事業」では、顧客から受領した測定試料をメタボローム解析し、結果を報告する受託解析サービスの提供を、「バイオマーカー事業」では、バイオマーカーを用いて体外診断用医薬品や診断機器の開発を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。また、報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント		
	メタボローム 解析事業	バイオマーカー 事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	913,458	722	914,180
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	913,458	722	914,180
セグメント利益又は損失 ()	501,010	198,005	303,004
セグメント資産	260,103	48,365	308,468
その他の項目			
減価償却費	29,547	16,508	46,056
有形固定資産及び無形 固定資産の増加額	20,905	8,344	29,249

当連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント		
	メタボローム 解析事業	バイオマーカー 事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	936,027	2,150	938,178
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	936,027	2,150	938,178
セグメント利益又は損失（ ）	445,146	185,305	259,840
セグメント資産	454,274	54,807	509,081
その他の項目			
減価償却費	37,404	13,401	50,806
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	115,277	882	116,159

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	303,004	259,840
全社費用（注）	346,337	400,755
連結財務諸表の営業損失（ ）	43,332	140,914

（注）全社費用は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費等であります。

（単位：千円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	308,468	509,081
全社資産（注）	1,713,579	1,412,266
連結財務諸表の資産合計	2,022,047	1,921,347

（注）全社資産は、主に各報告セグメントに配分していない現金及び預金、有価証券等であります。

（単位：千円）

その他の項目	報告セグメント計		調整額（注）		連結財務諸表計上額	
	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度	前連結 会計年度	当連結 会計年度
減価償却費	46,056	50,806	7,189	10,664	53,245	61,470
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	29,249	116,159	11,747	19,435	40,997	135,594

（注）1．減価償却費の調整額と有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない東京事務所の供用資産に係るものであります。

2．報告セグメントの減価償却費は、売上原価及び一般管理費に配賦されております。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2016年4月1日 至 2017年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	その他	合計
798,991	115,189	914,180

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2. その他に属する国又は地域は、北米、欧州及び本邦を除くアジア地域であります。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	その他	合計
781,968	156,209	938,178

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2. その他に属する国又は地域は、北米、欧州及び本邦を除くアジア地域であります。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2016年4月1日 至 2017年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2016年4月1日 至 2017年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2016年4月1日 至 2017年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 2016年4月1日 至 2017年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員	菅野隆二	-	-	当社代表取締役	(被所有) 直接 1.3	-	ストックオプションの権利行使	19,209 (28千株)	-	-

(注) 2008年6月5日及び2010年12月8日開催の当社取締役会の決議に基づき付与されたストックオプションの当連結会計年度における権利行使を記載しております。

当連結会計年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
役員	菅野隆二	-	-	当社代表取締役	(被所有) 直接 1.3	-	ストックオプションの権利行使	6,003 (9千株)	-	-

(注) 2010年12月8日開催の当社取締役会の決議に基づき付与されたストックオプションの当連結会計年度における権利行使を記載しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
1株当たり純資産額	317.98円	293.78円
1株当たり当期純損失()	10.86円	26.92円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	-	-

(注) 1. 潜在株調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失金額()の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
1株当たり当期純損失金額()		
親会社株主に帰属する当期純損失() (千円)	61,913	156,527
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純損失()(千円)	61,913	156,527
普通株式の期中平均株式数(株)	5,701,567	5,815,090
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額の算定に含まれな かった潜在株式の概要	新株予約権4種類 (新株予約権の数1,398個) これらの詳細は、「第4 提出会社の状況 1 株式 等の状況 (2) 新株予約権 等の状況」に記載のとおり であります。	新株予約権5種類 (新株予約権の数1,851個) これらの詳細は、「第4 提出会社の状況 1 株式 等の状況 (2) 新株予約権 等の状況」に記載のとおり であります。

(重要な後発事象)

(ストック・オプション(新株予約権)の割当)

当社は、会社法第236条、第238条及び第239条の規定並びに2017年6月24日開催の当社第14回定時株主総会決議に基づき、2018年4月18日開催の当社取締役会において、2018年5月7日に新株予約権の割当を行うことを決議し、2018年5月7日に本新株予約権の割当を行っております。

新株予約権(ストック・オプション)の内容

1. 新株予約権の総数
170個(新株予約権1個につき普通株式100株)
2. 新株予約権の払込金額
新株予約権と引換えに金銭を払い込むことを要しない。
3. 新株予約権の目的である株式の種類及び数
当社普通株式 17,000株
4. 新株予約権の行使に関する払込金額
1株につき2,043円
5. 株予約権の行使期間
2020年5月8日から2025年5月7日まで
割当日後2年を経過した日から5年間とする。
6. 新株予約権の割当対象者及び割当数
当社の従業員 2名 170個

(ストック・オプションとしての新株予約権の発行について)

当社は、2018年5月16日開催の取締役会において、会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、当社の監査等委員以外の取締役、監査等委員である取締役及び使用人並びに当社子会社の取締役及び使用人に対して無償にて発行するストックオプションとしての新株予約権に関する募集事項の決定を当社取締役会に委任することにつき、2018年6月23日開催の当社第15回定時株主総会(以下、「本株主総会」といいます。)に付議することを決議し、本株主総会において承認されました。

1. 新株予約権を発行する目的
当社の業績向上及び企業価値増大に対する意欲や士気を高めるため
2. 新株予約権(ストック・オプション)の具体的な内容
 - (1) 新株予約権の目的である株式の種類及び数
新株予約権1個当たり当社普通株式100株
 - (2) 新株予約権の総数
1,000個を上限とする。

- (3) 新株予約権の払込金額
新株予約権と引換えに金銭を払い込むことを要しない。
- (4) 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、当該各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式1株当たりの払込金額（以下、「行使価額」という）に付与株式数を乗じた金額とする。
行使価額は、新株予約権を割り当てる日（以下「割当日」という）の属する月の前月の各日（取引が成立しない日を除く）の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値（以下「終値」という）の平均値（1円未満の端数は切り上げる）又は割当日の終値（当日に終値がない場合は、それに先立つ直近の取引日の終値）のいずれか高い金額とする。
- (5) 新株予約権の行使期間
割当日後2年を経過した日から5年間とする。
- (6) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項
新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、資本準備金の額は、資本金等増加限度額から増加する資本金の額を減じた額とする。
- (7) 譲渡による新株予約権の取得の制限
譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要する。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定のリース債務	2,749	9,452	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	-	31,751	-	2022年
合計	2,749	41,204	-	-

(注)リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	117,547	307,560	519,840	938,178
税金等調整前四半期(当期)純損失金額() (千円)	131,652	227,165	285,564	149,173
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失金額() (千円)	132,085	227,791	286,515	156,527
1株当たり四半期(当期)純損失() (円)	22.74	39.20	49.29	26.92

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失() (円)	22.74	16.47	10.10	22.33

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2017年3月31日)	当事業年度 (2018年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,484,354	1,170,558
売掛金	1 154,172	1 200,405
有価証券	100,000	200,190
商品	11,232	14,829
仕掛品	2,915	2,402
原材料及び貯蔵品	8,732	7,019
その他	1 23,324	1 18,863
流動資産合計	1,784,731	1,614,268
固定資産		
有形固定資産		
建物	18,097	20,077
工具、器具及び備品	285,723	322,312
リース資産	108,061	136,892
減価償却累計額	342,271	342,660
有形固定資産合計	69,610	136,621
無形固定資産		
ソフトウェア	4,480	8,936
無形固定資産合計	4,480	8,936
投資その他の資産		
投資有価証券	101,062	-
関係会社株式	193,910	-
関係会社長期貸付金	211,190	405,240
その他	9,966	8,407
貸倒引当金	173,598	308,205
投資損失引当金	193,910	-
投資その他の資産合計	148,619	105,441
固定資産合計	222,710	251,000
資産合計	2,007,442	1,865,269

(単位：千円)

	前事業年度 (2017年3月31日)	当事業年度 (2018年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4	66
リース債務	2,749	9,452
未払法人税等	34,978	7,184
未払消費税等	27,594	20,402
その他	1 66,500	1 76,923
流動負債合計	131,826	114,030
固定負債		
リース債務	-	31,751
繰延税金負債	3,354	954
資産除去債務	13,760	13,885
固定負債合計	17,114	46,592
負債合計	148,941	160,622
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,447,484	1,454,687
資本剰余金		
資本準備金	1,436,200	1,443,404
資本剰余金合計	1,436,200	1,443,404
利益剰余金		
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	4,947	-
繰越利益剰余金	1,042,202	1,232,989
利益剰余金合計	1,037,255	1,232,989
自己株式	-	67
株主資本合計	1,846,429	1,665,035
新株予約権	12,070	39,611
純資産合計	1,858,500	1,704,646
負債純資産合計	2,007,442	1,865,269

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
売上高	1 879,728	1 838,725
売上原価	1 185,013	195,293
売上総利益	694,714	643,432
販売費及び一般管理費	2 514,030	2 614,343
営業利益	180,684	29,088
営業外収益		
受取利息及び配当金	1 3,372	1 5,106
補助金収入	3,873	2,167
為替差益	2,671	-
受取賃貸料	1,000	2,000
その他	98	870
営業外収益合計	11,017	10,144
営業外費用		
支払利息	377	572
株式交付費	4,399	150
為替差損	-	9,046
貸倒引当金繰入額	131,768	218,606
その他	203	25
営業外費用合計	136,749	228,401
経常利益又は経常損失()	54,952	189,168
特別利益		
固定資産売却益	-	3 530
特別利益合計	-	530
特別損失		
投資損失引当金繰入額	4 100,000	-
特別損失合計	100,000	-
税引前当期純損失()	45,047	188,638
法人税、住民税及び事業税	23,536	9,495
法人税等調整額	2,425	2,399
法人税等合計	21,111	7,096
当期純損失()	66,158	195,734

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)		当事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
商品仕入高		10,780	5.9	16,366	8.2
材料費		995	0.6	1,003	0.5
労務費		66,715	36.7	76,073	38.2
経費		103,199	56.8	105,497	53.0
計		181,691	100.0	198,940	100.0
商品期首たな卸高		16,451		11,232	
仕掛品期首たな卸高		877		2,915	
合計		199,020		213,088	
商品期末たな卸高		11,232		14,829	
仕掛品期末たな卸高		2,915		2,402	
他勘定振替高		141		563	
当期売上原価		185,013		195,293	

(注) 1 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
減価償却費	28,304	29,234
修繕費	30,631	30,483
消耗品費	21,522	20,794
水道光熱費	9,258	11,708

2 他勘定振替高の主なものは研究開発費、販売促進費及び自社消費のための内部振替等であります。

(原価計算の方法)

当社の原価計算は、実際個別原価計算制度を採用しております。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2016年4月1日 至 2017年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							新株予約権	純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式			株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計				
				固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金					
当期首残高	1,253,941	1,242,658	1,242,658	9,894	980,990	971,096	-	1,525,503	-	1,525,503
当期変動額										
新株の発行	193,542	193,542	193,542					387,085		387,085
固定資産圧縮積立金の取崩				4,947	4,947	-		-		-
当期純損失（ ）					66,158	66,158		66,158		66,158
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									12,070	12,070
当期変動額合計	193,542	193,542	193,542	4,947	61,211	66,158	-	320,926	12,070	332,997
当期末残高	1,447,484	1,436,200	1,436,200	4,947	1,042,202	1,037,255	-	1,846,429	12,070	1,858,500

当事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							新株予約権	純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式			株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金		利益剰余金合計				
				固定資産圧縮積立金	繰越利益剰余金					
当期首残高	1,447,484	1,436,200	1,436,200	4,947	1,042,202	1,037,255	-	1,846,429	12,070	1,858,500
当期変動額										
新株の発行	7,203	7,203	7,203					14,407		14,407
固定資産圧縮積立金の取崩				4,947	4,947	-		-		-
当期純損失（ ）					195,734	195,734		195,734		195,734
自己株式の取得							67	67		67
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									27,541	27,541
当期変動額合計	7,203	7,203	7,203	4,947	190,787	195,734	67	181,394	27,541	153,853
当期末残高	1,454,687	1,443,404	1,443,404	-	1,232,989	1,232,989	67	1,665,035	39,611	1,704,646

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券・・・償却原価法(定額法)

子会社株式・・・・・・・・・・移動平均法による原価法

その他有価証券・・・・・・・・時価のあるもの

投資信託のうち預金と同様の性格を有する有価証券については、移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品、原材料及び貯蔵品・・・移動平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

仕掛品・・・・・・・・・・個別法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、耐用年数は次のとおりであります。

建物 3年～18年

工具、器具及び備品 2年～10年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(3～5年)で償却しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

3 引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 繰延資産の処理方法

株式交付費・・・支出時に全額費用処理しております。

(2) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により換算し、換算差額は損益として処理しております。

(3) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産及び負債

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2017年3月31日)	当事業年度 (2018年3月31日)
短期金銭債権	16,206千円	12,163千円
短期金銭債務	166千円	5千円

(損益計算書関係)

1 関係会社との営業取引の取引高の総額

	前事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	47,662千円	30,600千円
仕入高	1,038千円	-千円
営業取引以外の取引高		
受取利息	2,469千円	4,198千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
役員報酬	83,004千円	84,850千円
給与及び手当	111,344千円	133,602千円
減価償却費	8,329千円	9,752千円
研究開発費	97,093千円	125,619千円
おおよその割合		
販売費	5.29%	5.96%
一般管理費	94.71%	94.04%

3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)	当連結会計年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)
工具、器具及び備品	-千円	530千円
計	-千円	530千円

4 投資損失引当金繰入額

前事業年度(自 2016年4月1日 至 2017年3月31日)

当社の連結子会社であるHMTバイオメディカル株式会社の財政状態等を勘案し、必要と認められる額を計上しております。

当事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

前事業年度(2017年3月31日)

関係会社株式(貸借対照表計上額は193,910千円)は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。なお、当事業年度(2017年3月期)において、関係会社株式193,910千円に対して投資損失引当金193,910千円を計上しております。

当事業年度(2018年3月31日)

当事業年度(2018年3月期)において、関係会社株式193,910千円に対して計上していた投資損失引当金193,910千円を取崩し、全額減損処理を行っております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2017年3月31日)	当事業年度 (2018年3月31日)
繰延税金資産		
流動資産		
未払事業税	3,696千円	2,188千円
繰延税金資産小計	3,696千円	2,188千円
評価性引当額	3,696千円	2,188千円
固定資産		
投資損失引当金	59,063千円	-千円
子会社株式	-千円	83,355千円
貸倒引当金	52,876千円	93,876千円
資産除去債務	4,191千円	4,229千円
減価償却超過額	881千円	711千円
繰越欠損金	86,732千円	69,338千円
繰延税金資産小計	203,744千円	251,511千円
評価性引当額	203,744千円	251,511千円
繰延税金資産合計	-千円	-千円
繰延税金負債		
固定負債		
資産除去債務に対応する除却費用	1,163千円	954千円
固定資産圧縮記帳積立金	2,190千円	-千円
繰延税金負債合計	3,354千円	954千円
繰延税金資産(負債)の純額	3,354千円	954千円

(注) 前事業年度及び当事業年度における繰延税金負債の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (2017年3月31日)	当事業年度 (2018年3月31日)
固定負債 - 繰延税金負債	3,354千円	954千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2017年3月31日)	当事業年度 (2018年3月31日)
法定実効税率	30.7%	30.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.2%	5.0%
住民税均等割等	7.4%	1.6%
試験研究費等の税額控除	12.8%	1.4%
評価性引当額の増減額	76.1%	24.5%
繰越欠損金期限切れ	-%	3.2%
当期実効税率と将来の負担税率との差異の影響	3.2%	-%
その他	2.6%	1.6%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	46.9%	3.8%

(重要な後発事象)

連結財務諸表の注記事項(重要な後発事象)に記載しているため、記載を省略しております。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

資産の種類	当期首 残高	当期 増加額	当期 減少額	当期 償却額	当期末 残高	減価償却 累計額
有形固定資産						
建物	8,651	1,980	-	1,349	9,282	10,795
工具、器具及び備 品	41,482	29,916	2,469	34,830	34,098	288,214
リース資産	19,476	96,202	409	22,028	93,240	43,651
有形固定資産計	69,610	128,098	2,879	58,208	136,621	342,660
無形固定資産						
ソフトウェア	4,480	6,782	-	2,325	8,936	8,513
無形固定資産計	4,480	6,782	-	2,325	8,936	8,513

(注) 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

建物	鶴岡本社研究所	空調設備	1,980千円
工具、器具及び備 品	鶴岡本社研究所	質量分析装置等	16,191千円
リース資産	鶴岡本社研究所	質量分析装置等	96,202千円
ソフトウェア	鶴岡本社研究所	解析ソフト	5,800千円

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額 (目的使用)	当期末残高
貸倒引当金	173,598	218,606	84,000	308,205
投資損失引当金	193,910	-	193,910	-

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 - 無料
公告掲載方法	電子公告とする。但し、電子公告を行うことができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告する。 公告掲載URL http://humanmetabolome.com/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。
 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第14期（自 2016年4月1日 至 2017年3月31日） 2017年6月27日東北財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2017年6月27日東北財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第15期第1四半期（自 2017年4月1日 至 2017年6月30日） 2017年8月14日東北財務局長に提出

第15期第2四半期（自 2017年7月1日 至 2017年9月30日） 2017年11月13日東北財務局長に提出

第15期第3四半期（自 2017年10月1日 至 2017年12月31日） 2018年2月13日東北財務局長に提出

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書

2017年6月28日東北財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣布令第19条第2項第2号の2（新株予約権の発行）の規定に基づく臨時報告書

2017年9月20日東北財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣布令第19条第2項第2号の2（新株予約権の発行）の規定に基づく臨時報告書

2018年4月18日東北財務局長に提出

企業内容の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）の規定に基づく臨時報告書

2018年5月11日東北財務局長に提出

(5) 臨時報告書の訂正報告書

2017年9月20日提出の臨時報告書（新株予約権の発行）に係る訂正報告書

2017年10月5日東北財務局長に提出

2018年4月18日提出の臨時報告書（新株予約権の発行）に係る訂正報告書

2018年5月7日東北財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2018年6月25日

ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 城戸 和弘

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 永田 立

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社の2017年4月1日から2018年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社及び連結子会社の2018年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社の2018年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社が2018年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2018年6月25日

ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 城戸 和弘

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 永田 立

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社の2017年4月1日から2018年3月31日までの第15期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社の2018年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。